

令和 5 年度

安来市人権に関する市民意識調査 報 告 書

～ 概 要 版 ～

安 来 市

目 次

I. 調査の概要.....	1
II. 調査結果の概要.....	3
1 人権尊重社会に対する感じ方.....	4
2 人権の知識・認識.....	5
3 風習・慣習に関する意識.....	11
4 女性の人権について.....	13
5 子どもの人権について.....	15
6 高齢者の人権について.....	16
7 障がいのある人の人権について.....	17
8 同和問題について.....	18
9 外国人の人権について.....	28
10 患者及び感染者等の人権について.....	29
11 犯罪被害者とその家族の人権について.....	32
12 刑を終えて出所した人の人権について.....	33
13 インターネットによる人権侵害について.....	34
14 性的指向・性自認等（L G B T等）に関わる人権について.....	37
15 研修会の参加状況について.....	40
16 人権が尊重される社会に向けた取組について.....	43
III. 調査の概要・調査結果の分析.....	44

I. 調査の概要

1. 調査の目的

安来市が平成29年度に実施した人権に関する市民意識調査から6年が経過したことから、現在の状況を把握するとともに、今後の安来市における人権施策をより効果的に推進するための基礎資料を得る。

2. 調査項目

- (1) 人権尊重社会に対する感じ方
- (2) 人権の知識・認識
- (3) 風習・慣習に対する意識
- (4) 女性の人権について
- (5) 子どもの人権について
- (6) 高齢者の人権について
- (7) 障がいのある人の人権について
- (8) 同和問題について
- (9) 外国人の人権について
- (10) 患者及び感染者等の人権について
- (11) 犯罪被害者とその家族の人権について
- (12) 刑を終えて出所した人の人権について
- (13) インターネットによる人権侵害について
- (14) 性的指向・性自認等（LGBT等）に関わる人権について
- (15) 研修会の参加状況について
- (16) 人権が尊重される社会に向けての取組みについて

3. 調査設計

- (1) 調査対象：安来市に住民登録をしている18歳以上の市民
- (2) 標本数：1,500人
- (3) 標本抽出法：住民基本台帳により年代別均等無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法とオンラインによるWeb回答法
- (5) 調査期間：令和5年（2023年）7月31日～8月28日

4. 回収結果

- (1) 抽出標本数：1,500
- (2) 郵送戻り数：6
- (3) 実質調査標本数：1,494
- (4) 有効回収標本数：520（男性 251、女性 245、性別不明 24）
- (5) 有効回収率：34.8%

5. 調査回答者の属性

本調査の回答者（有効回収標本）520 人の基本属性は次のとおりである。

【性別】

区分	回答数（単位：人）	回答割合
男性	251	48.3%
女性	245	47.1%
自由記載	2	0.4%
無回答	22	4.2%
計	520	100.0%

【年齢（満年齢）】

区分	回答数（単位：人）	回答割合
18～19 歳	7	1.3%
20～29 歳	49	9.4%
30～39 歳	65	12.5%
40～49 歳	64	12.3%
50～59 歳	62	11.9%
60～69 歳	96	18.5%
70～79 歳	91	17.5%
80 歳以上	71	13.7%
無回答	15	2.9%
計	520	100.0%

【住所（中学校区）】

区分	回答数（単位：人）	回答割合
安来第一中学校区	214	41.2%
安来第二中学校区	48	9.2%
安来第三中学校区	84	16.2%
広瀬中学校区	91	17.5%
伯太中学校区	53	10.2%
無回答	30	5.8%
計	520	100.0%

Ⅱ．調査結果の概要

調査結果のみかた

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数（副設問では設問該当対象数）に対する百分比（％）を表している。1人の対象に2つ以上の回答を求めている設問では、百分比（％）の合計は100％を超える。
- (2) 百分比（％）は、少数第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 経年比較・島根県調査との比較については、比較する設問・選択肢の内容や選択条件（選択数など）が一致していないものもある。

（ 比較に用いた過去調査・他調査の概要 ）

本調査結果報告書では、本市が平成29年度に実施した「安来市人権に関する市民意識調査」、島根県が令和3年度に実施した「島根県人権問題県民意識調査」の調査結果を用いて、経年比較・他調査との比較を行っている。

なお、設問の内容や選択肢が異なっているものについては、比較可能な設問・選択肢のみを引用・比較している。

〈過去調査との経年比較〉

◆平成29年度 安来市調査

- ・調 査 名：「平成29年度 安来市人権に関する市民意識調査」
- ・調 査 時 期：平成29年（2017年）10月30日～11月24日
- ・調 査 対 象：安来市に住民登録をしている18歳以上の市民1,500人
- ・対象抽出方法：住民基本台帳により年代別均等無作為抽出
- ・調 査 方 法：郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- ・回 収 状 況：有効回収標本数560（37.5％）

〈他調査との比較〉

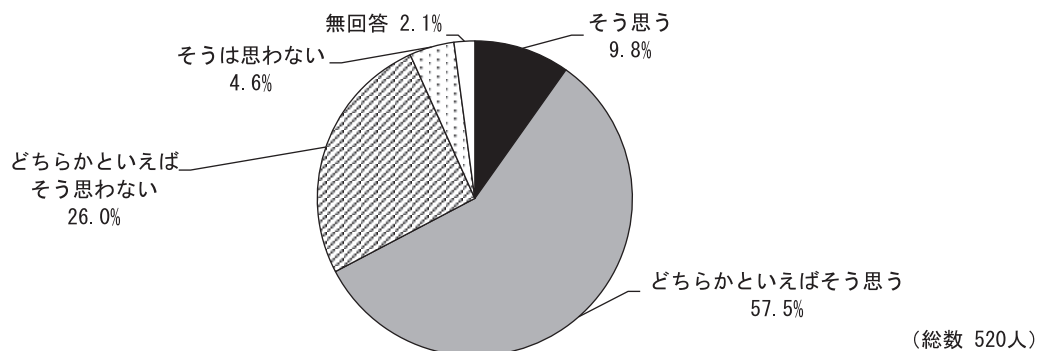
◆令和3年度 島根県調査

- ・調 査 名：「令和3年度 島根県人権問題県民意識調査」
- ・調 査 時 期：令和3年（2021年）11月15日～11月30日
- ・調 査 対 象：満18歳以上の県内在住者3,000人
- ・対象抽出方法：層化無作為抽出法
- ・調 査 方 法：郵送法（令状に併せ催促1回）
- ・回 収 状 況：有効回収標本数1,531（51.0％）

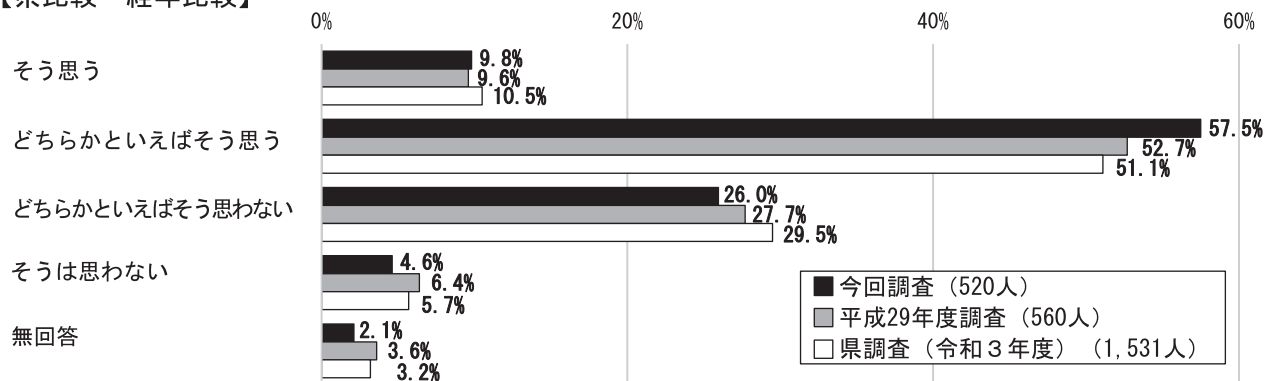
1 人権尊重社会に対する感じ方

1. 人権尊重社会に対する感じ方

問1. 今の安来市は、人権が尊重される社会になっていると思いますか。(○は1つ)

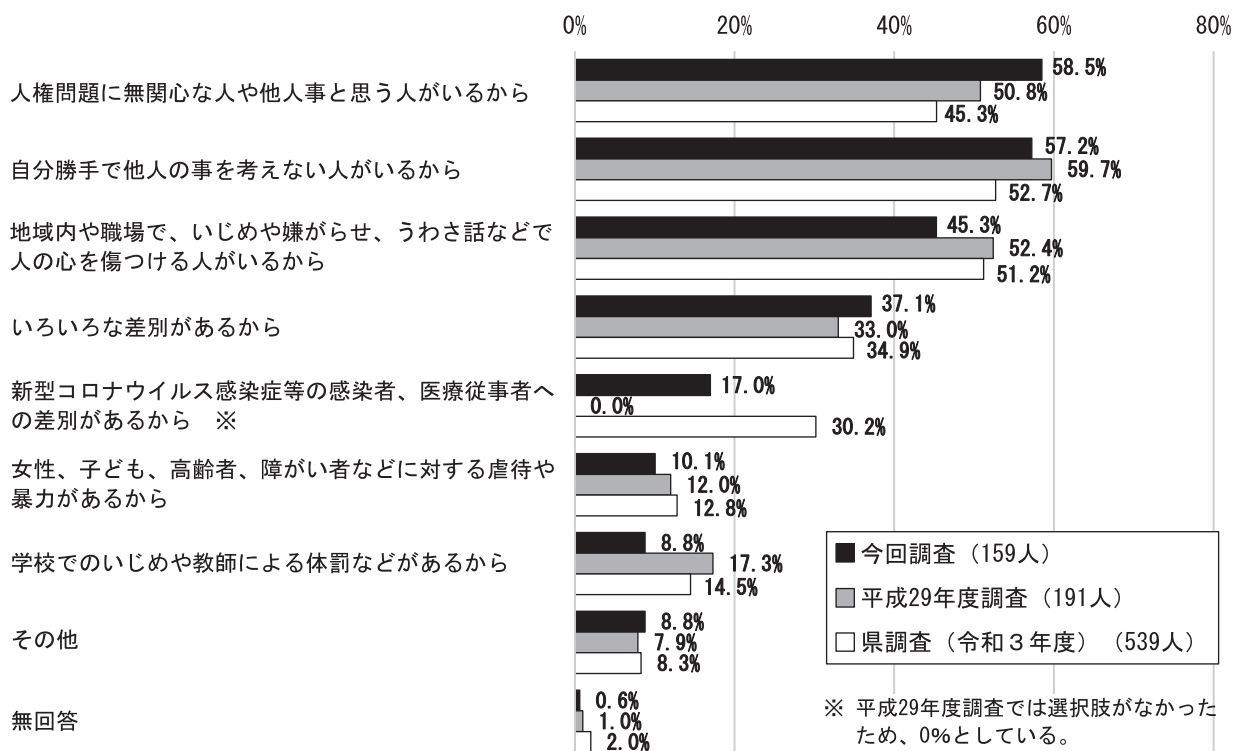


【県比較・経年比較】



2. 人権が尊重されていないと感じる理由

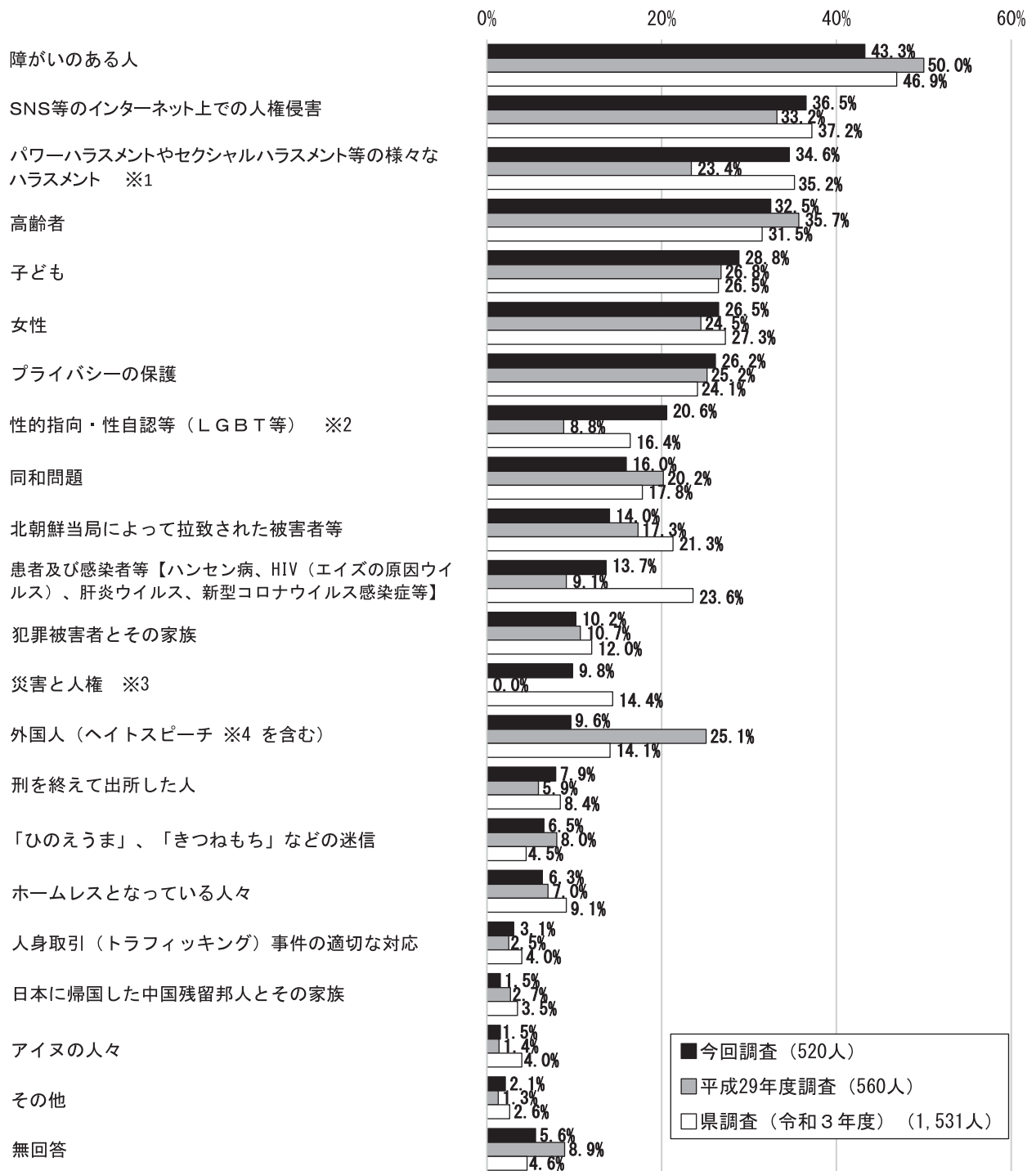
問2. 問1で「3」又は「4」を選ばれた方におたずねします。そう思われた理由は何ですか。(○はいくつでも)



2 人権の知識・認識

1. 人権課題への関心

問3 あなたは、現在どんな人権課題に関心をもっていますか。（〇はいくつでも）



※1 ハラスメント：嫌がらせ、いじめ

- ・パワーハラスメント：職場での優越的な関係を背景とした嫌がらせ
- ・セクシュアルハラスメント：性的な嫌がらせ

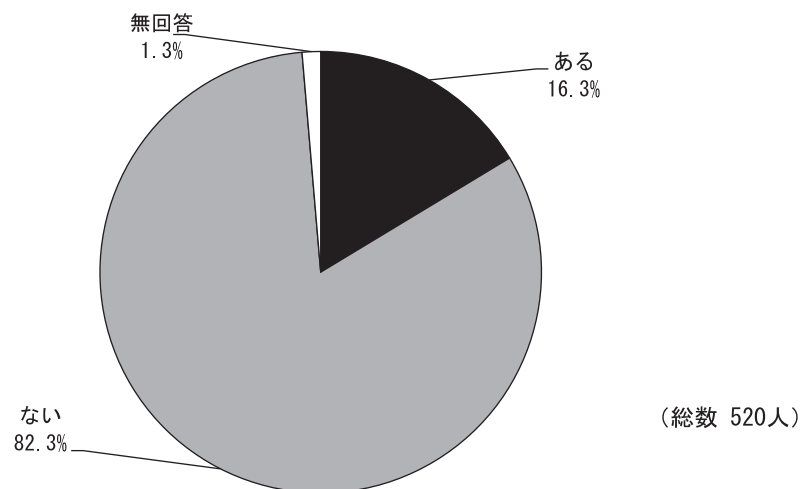
※2 性的指向・性自認等（LGBT等） p.37 に掲載

※3 災害と人権：震災等の大きな災害の発生時において、不確かな情報に基づいて他人を不当に取り扱ったり偏見や差別を助長するような情報を発信したりすることを課題としている。なお、平成29年度調査では「災害と人権」はなかったため、0%としている。

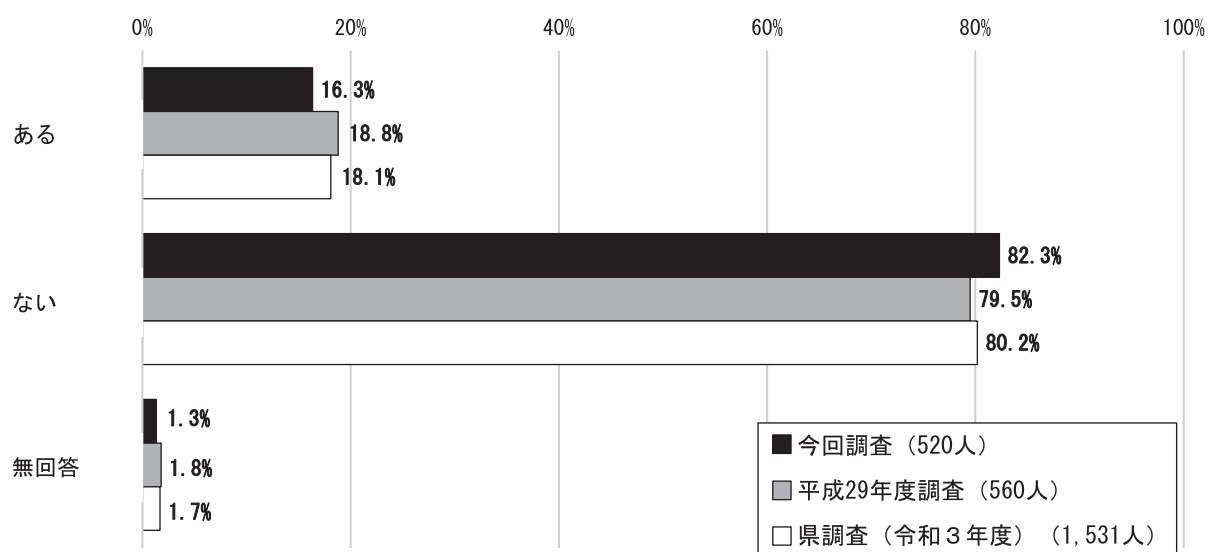
※4 ヘイトスピーチ：外国人に対する差別的言動。なお、平成29年度調査では別の選択肢であった「外国人」と「ヘイトスピーチ」については、それらの数値を加算して載せている。

2. 差別や人権侵害を受けた経験

問4 過去5年間ぐらいの間に、日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと感じることがありましたか。(○は1つ)

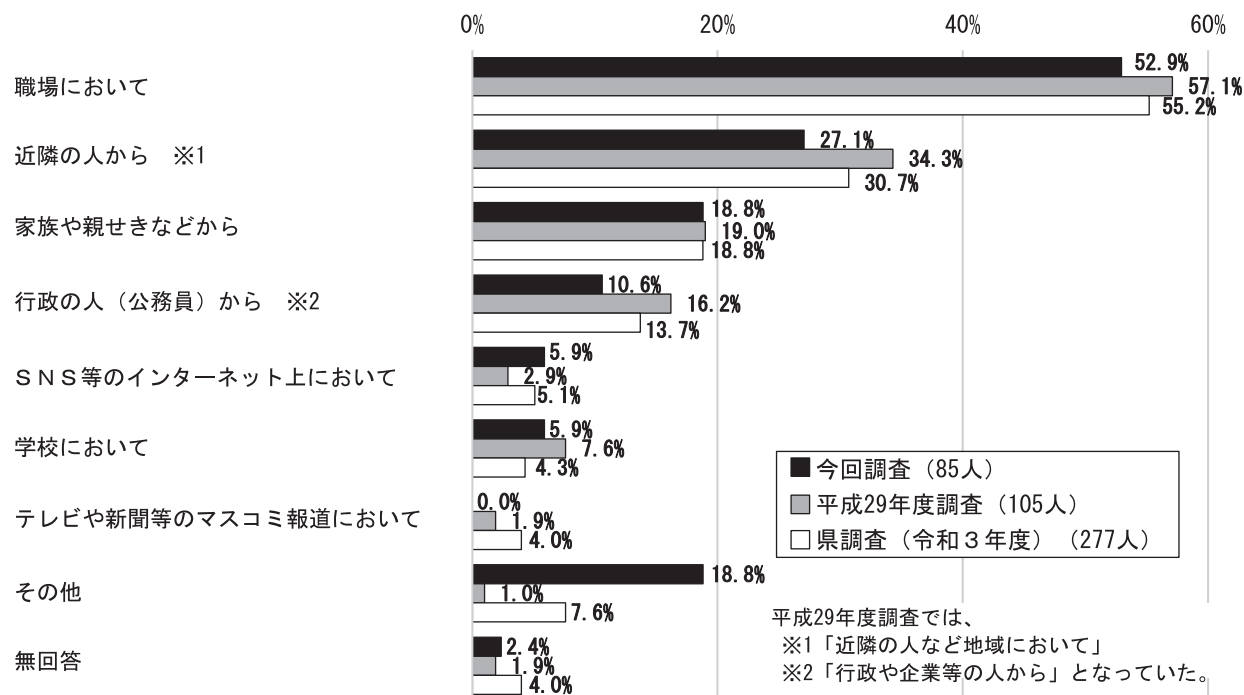


【県比較・経年比較】

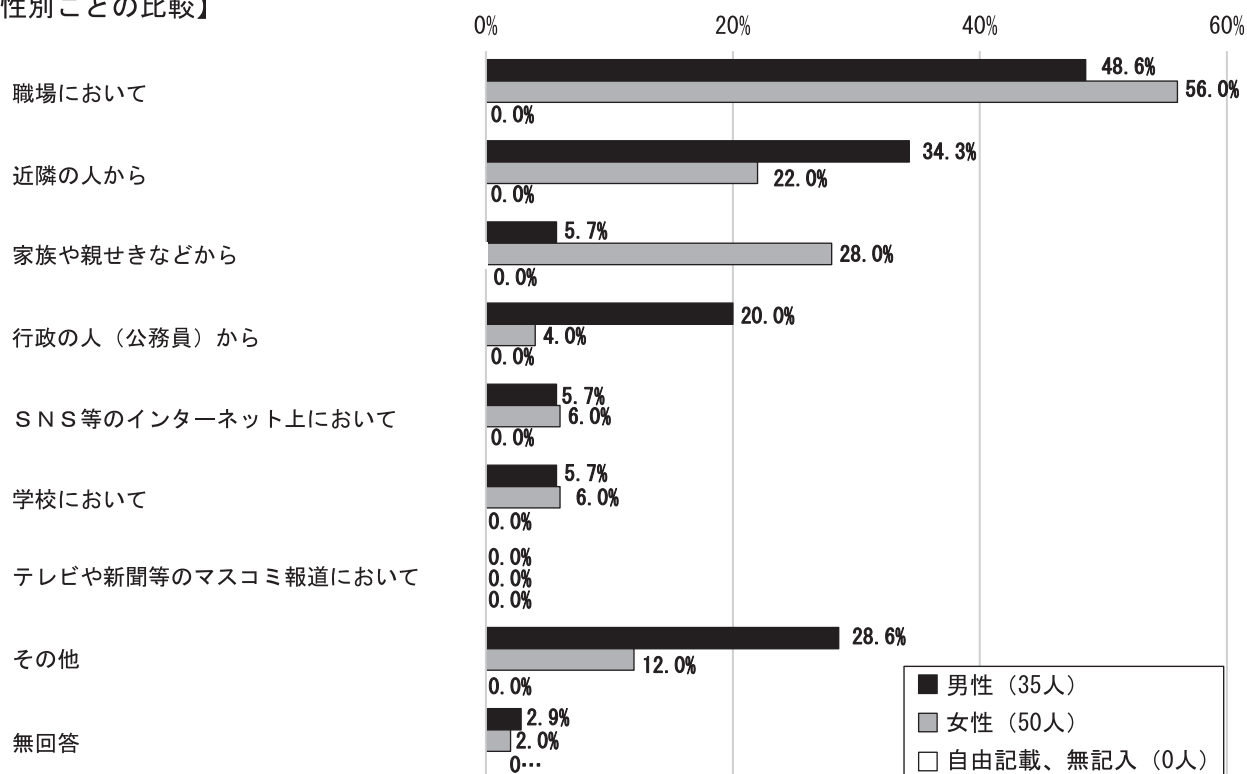


3. 差別や人権侵害を受けた相手

問5 問4で「1」と回答された方におたずねします。それは、誰から（どこで）差別や人権侵害を受けましたか。（〇はいくつでも）

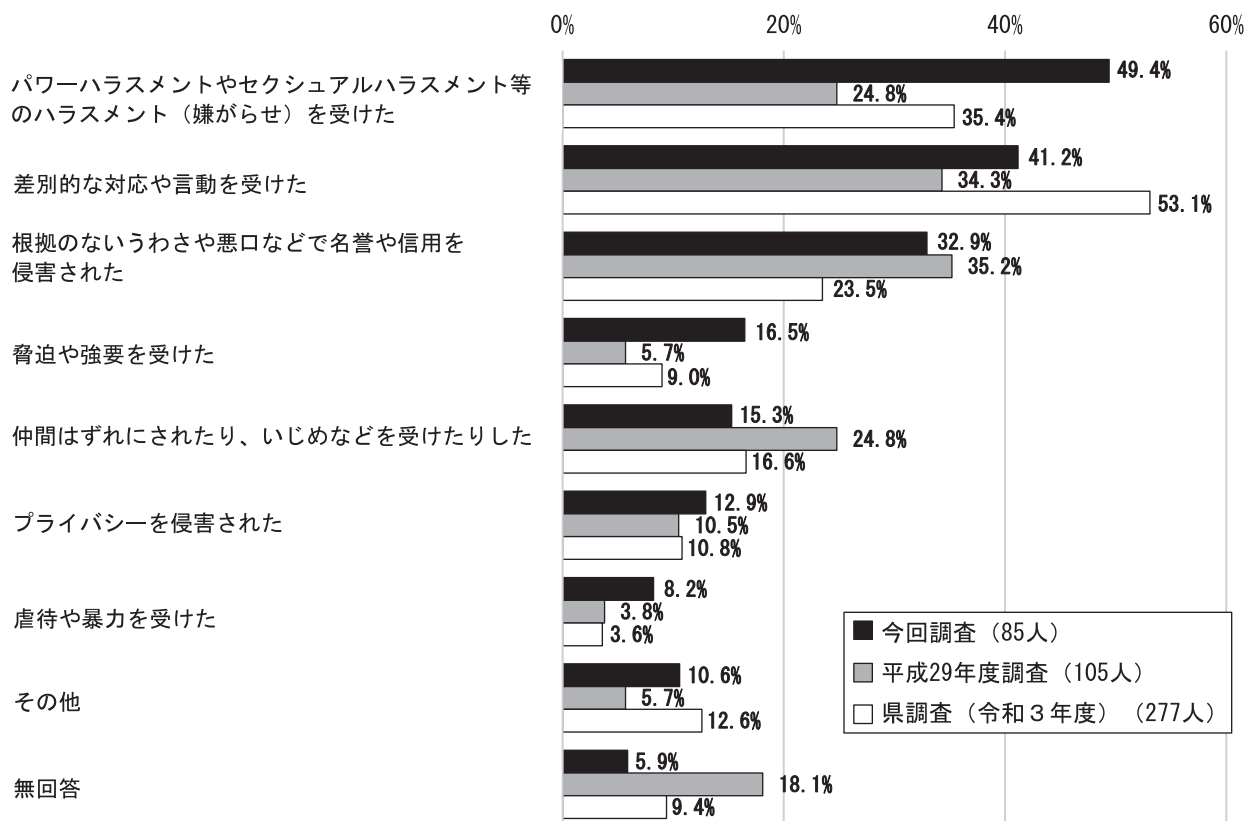


【性別ごとの比較】

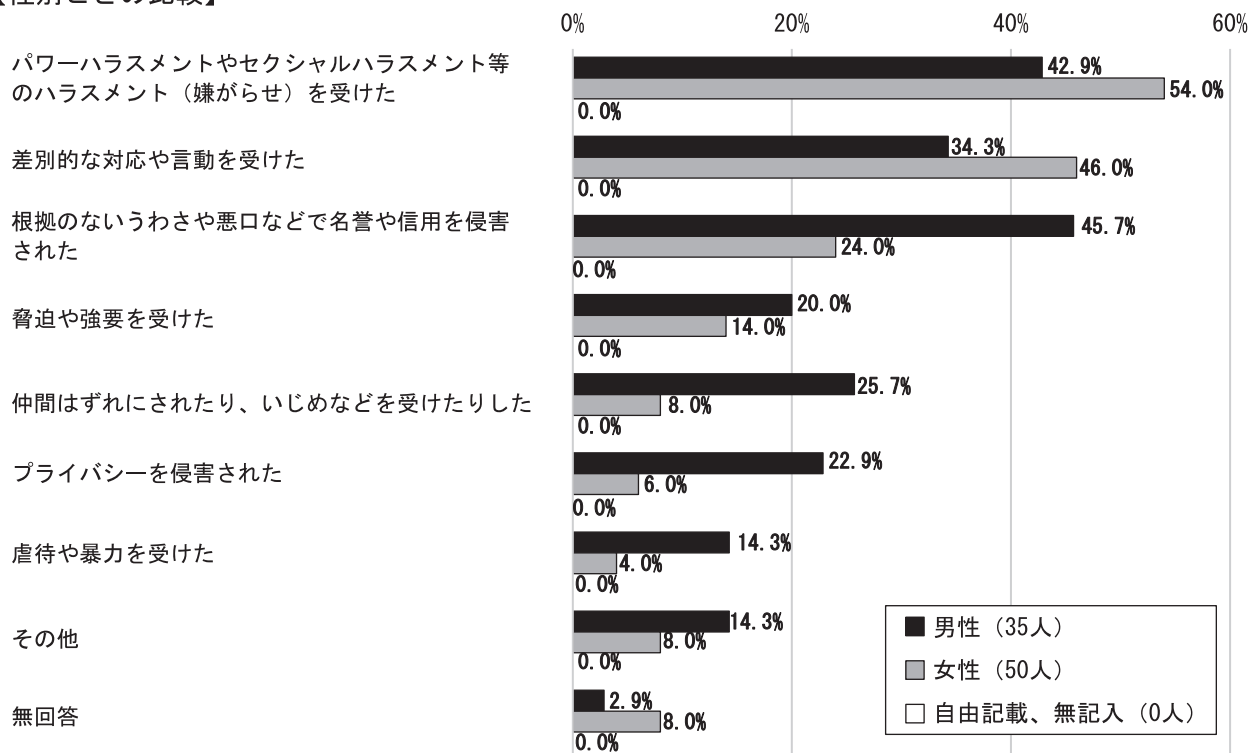


4. 受けた差別や人権侵害の内容

問6 問4で「1」と回答された方におたずねします。それは、どのような差別や人権侵害を受けましたか。(〇はいくつでも)

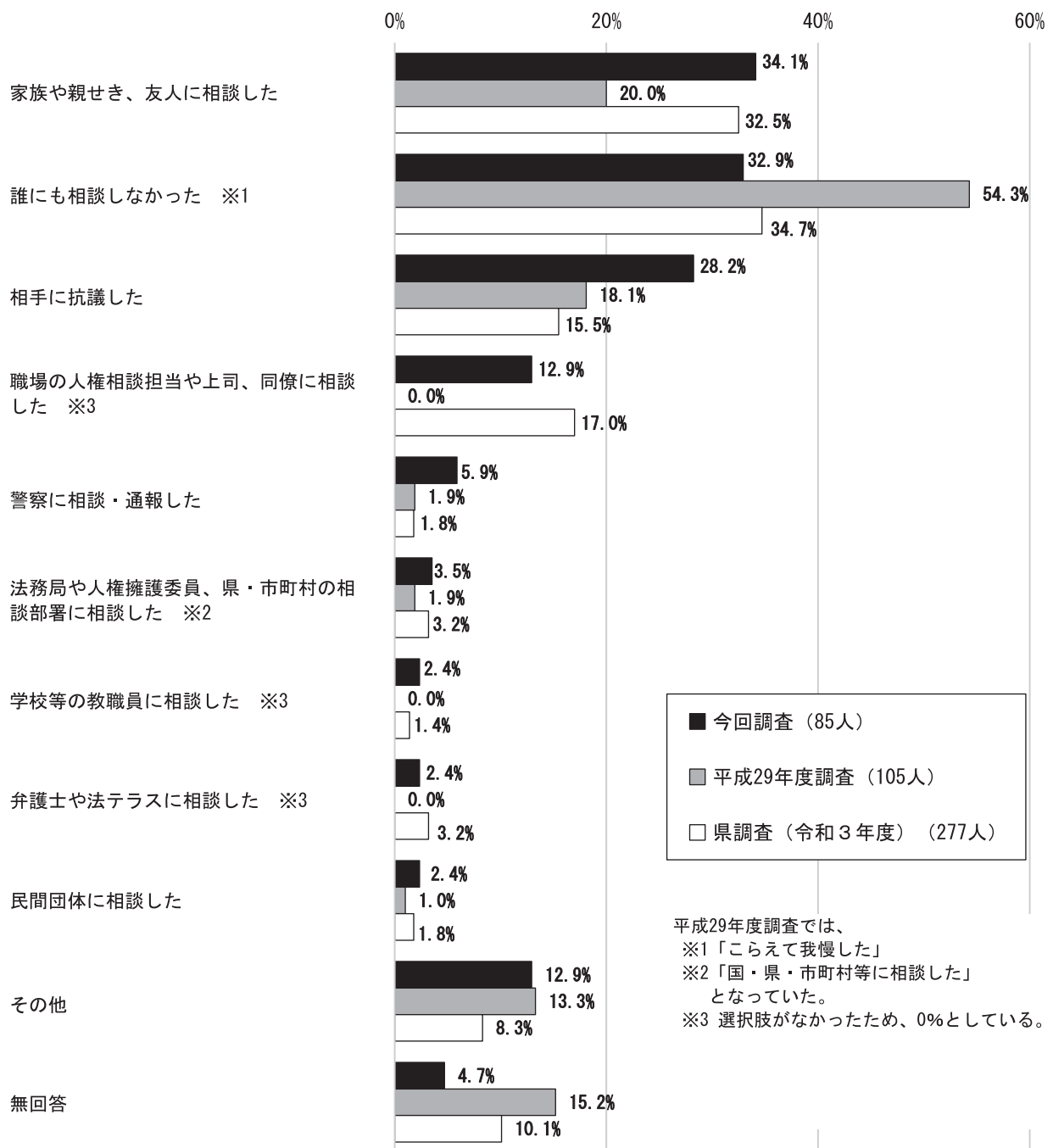


【性別ごとの比較】



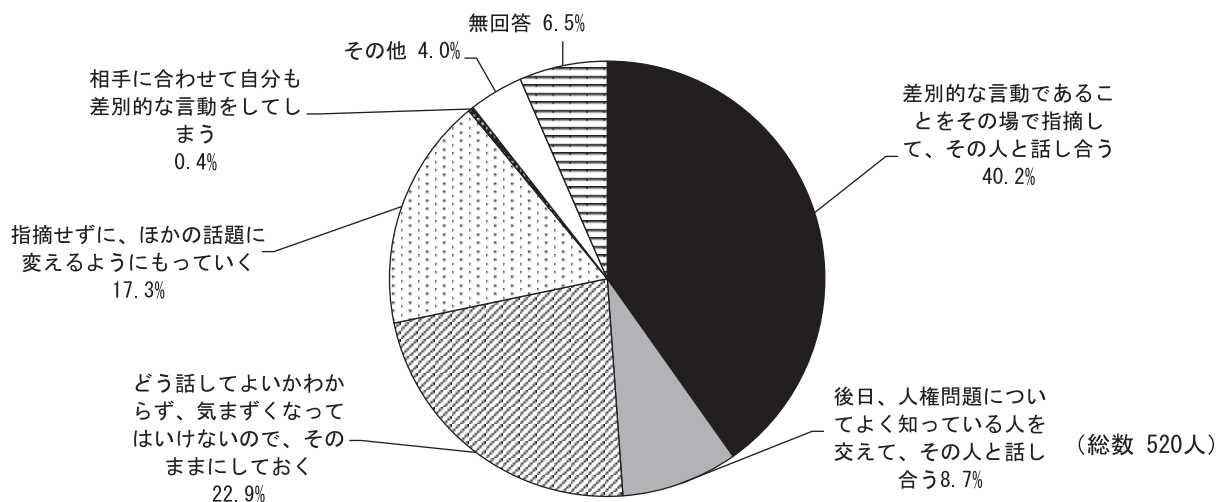
5. 差別や人権侵害を受けたときの対応

問7 問4で「1」と回答された方におたずねします。そのとき、あなたはどうしましたか。
(〇はいくつでも)

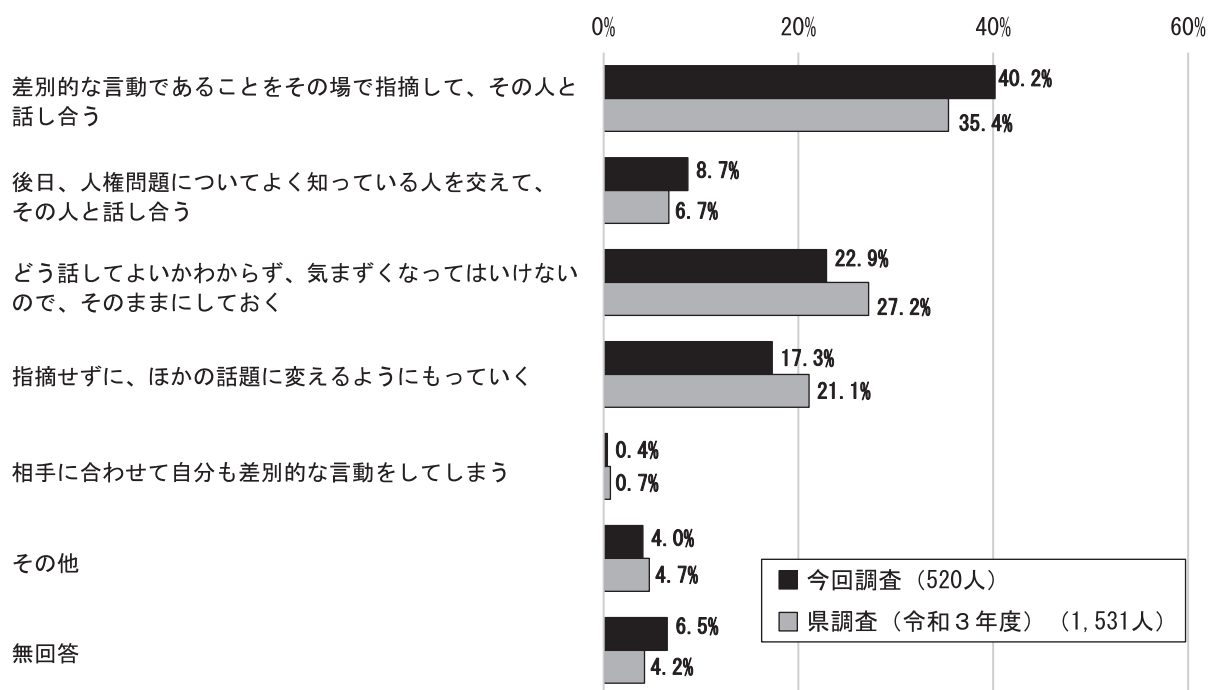


6. 身近な人が差別的な言動をした時の対応

問8 あなたの身近な人が、差別的な言動をしたとしたら、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)



【県比較・経年比較】

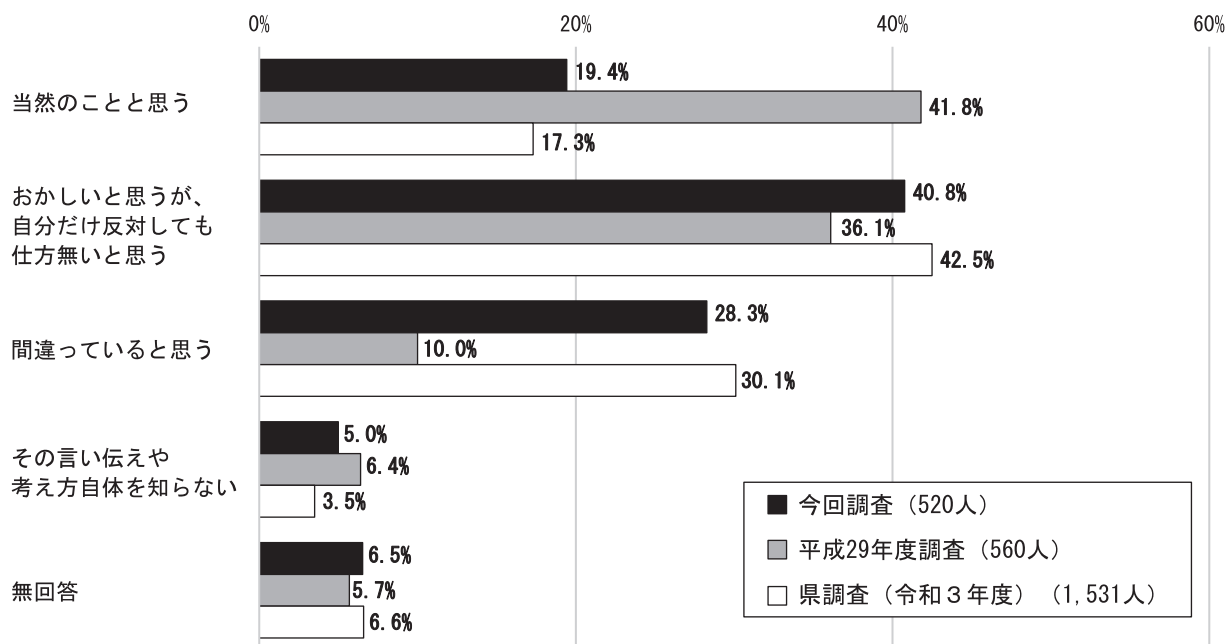


3 風習・慣習に関する意識

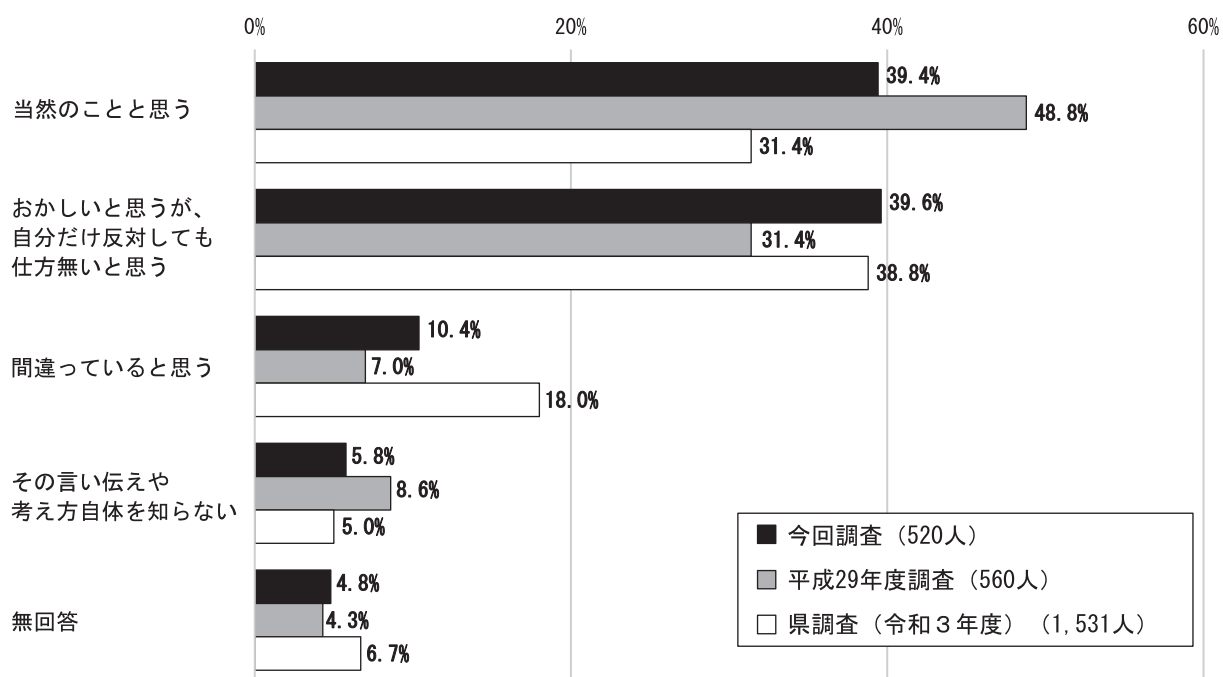
1. 風習・慣習に対する意識

問9 日本には古くからの言い伝えや考え方などがありますが、次の（１）～（５）について、あなたはどのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ）

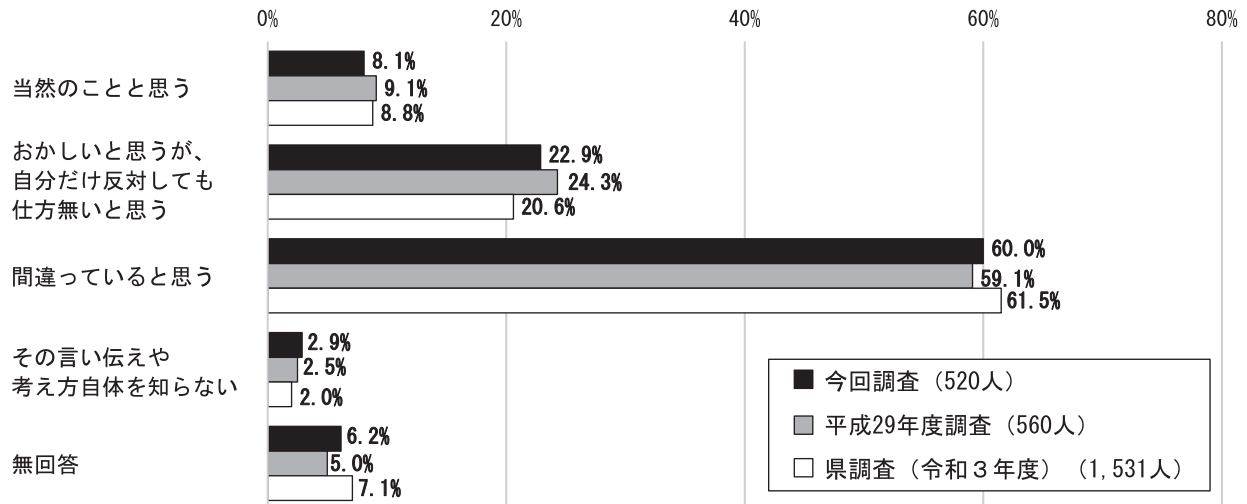
（１）結婚式や祝い事は「大安」の日がよい



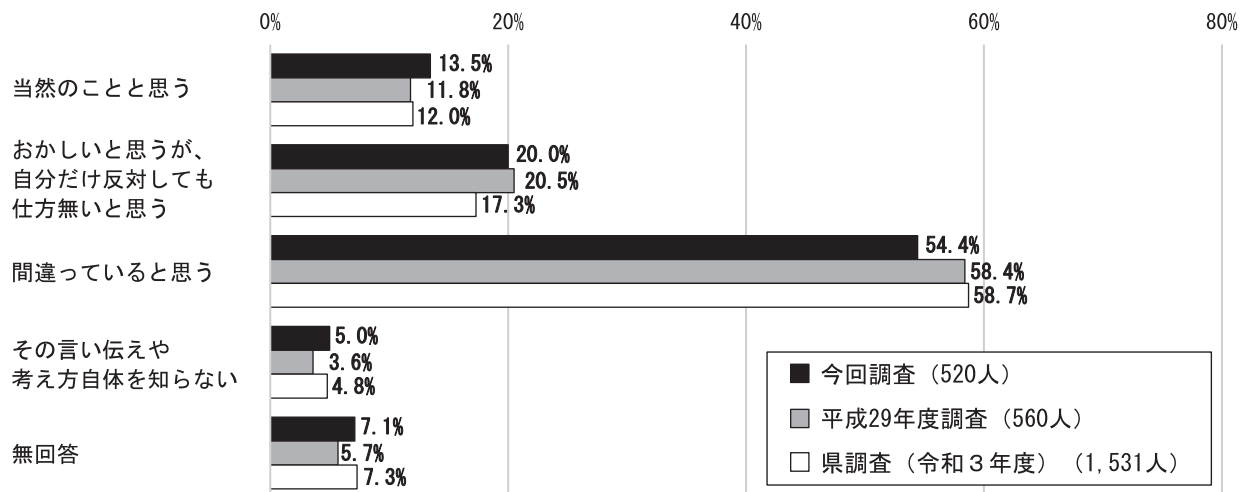
（２）葬儀は「友引」の日を避ける



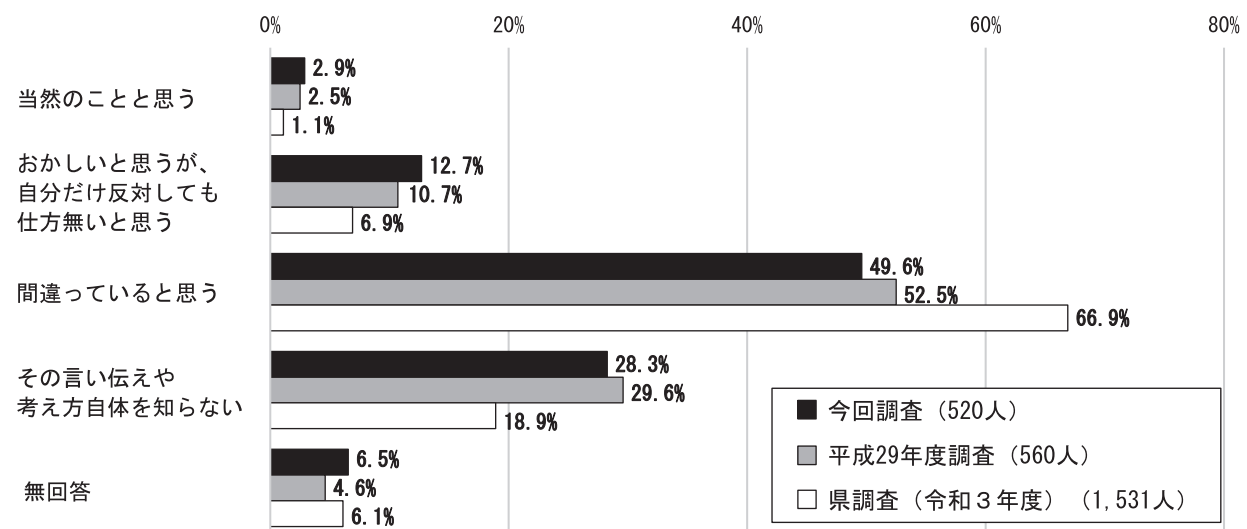
（３）結婚相手を決めるときに、家柄を気にする



（４）結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をする



（５）結婚相手を決めるときに、「ひのえうま」や「きつねもち」を気にする（※）

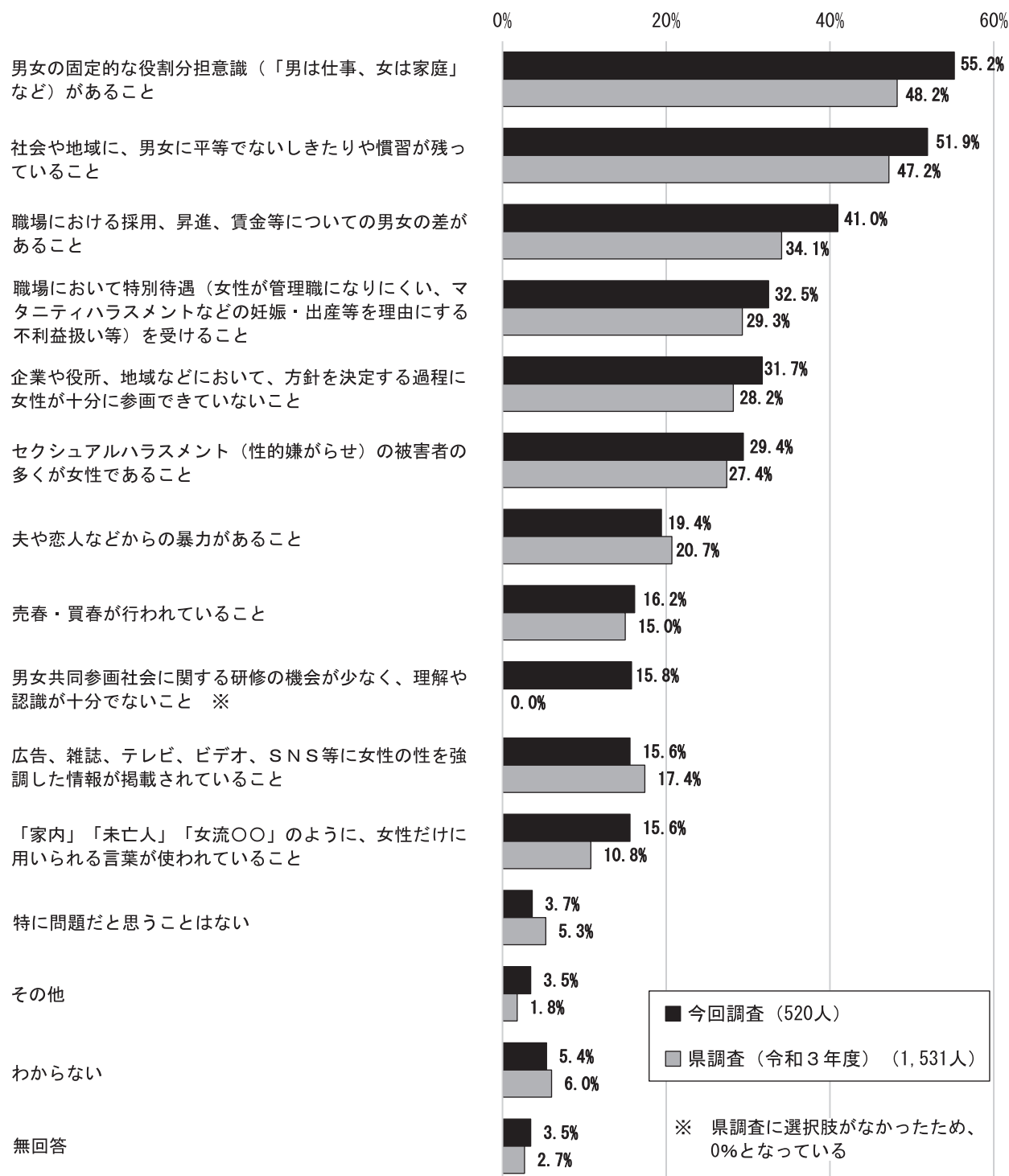


※ 令和3年度島根県調査では「ひのえうま」のみ対象。

4 女性の人権について

1. 女性に関する人権上の問題

問 10 女性の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（〇はいくつでも）



【性別ごとの比較】

男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）があること

社会や地域に、男女に平等でないしきたりや慣習が残っていること

職場における採用、昇進、賃金等についての男女の差があること

職場において差別待遇（女性が管理職になりにくい、マタニティハラスメントなどの妊娠・出産等を理由にする不利益扱い等）を受けること

企業や役所、地域などにおいて、方針を決定する過程に女性が十分に参画できていないこと

セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）の被害者の多くが女性であること

夫や恋人などからの暴力があること

男女共同参画社会に関する研修の機会が少なく、理解や認識が十分でないこと

売春・買春が行われていること

広告、雑誌、テレビ、ビデオ、SNS等に女性の性を強調した情報が掲載されていること

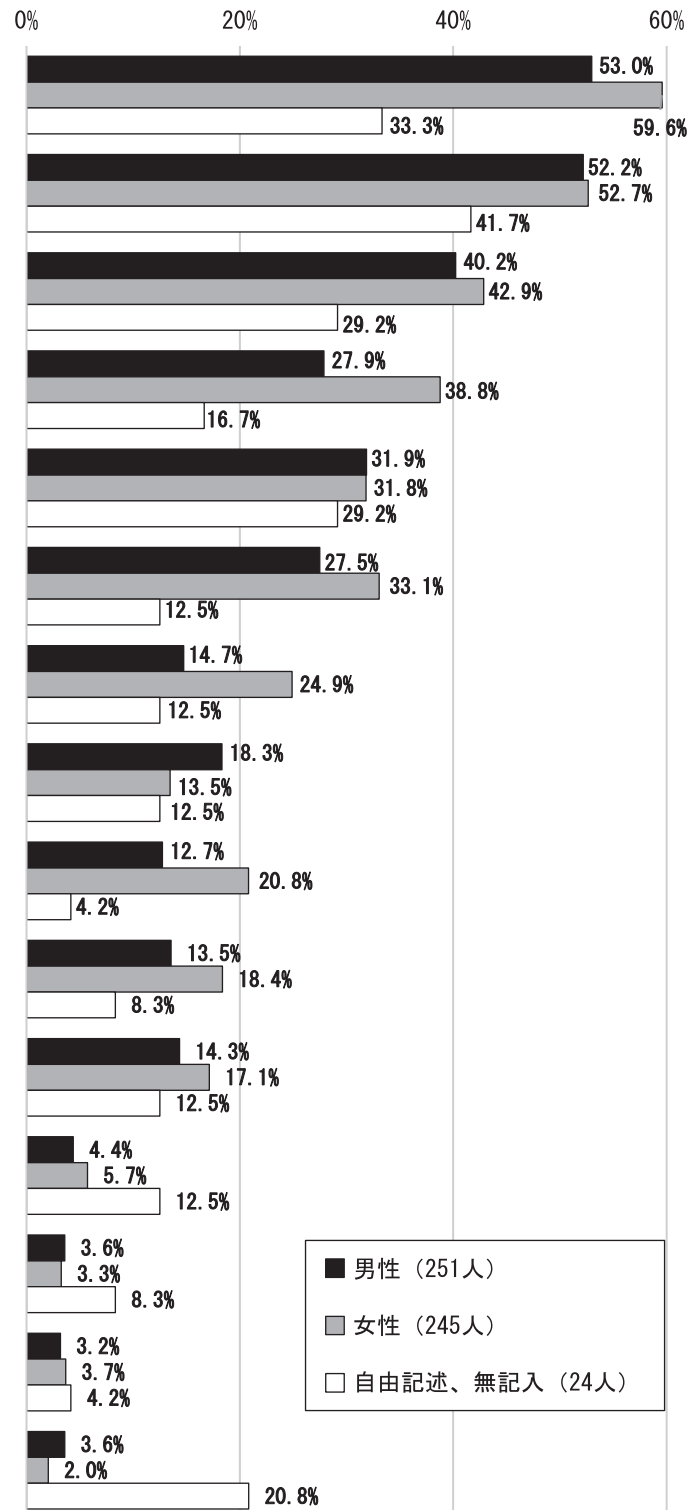
「家内」「未亡人」「女流○○」のように、女性だけに用いられる言葉が使われていること

わからない

特に問題だと思うことはない

その他

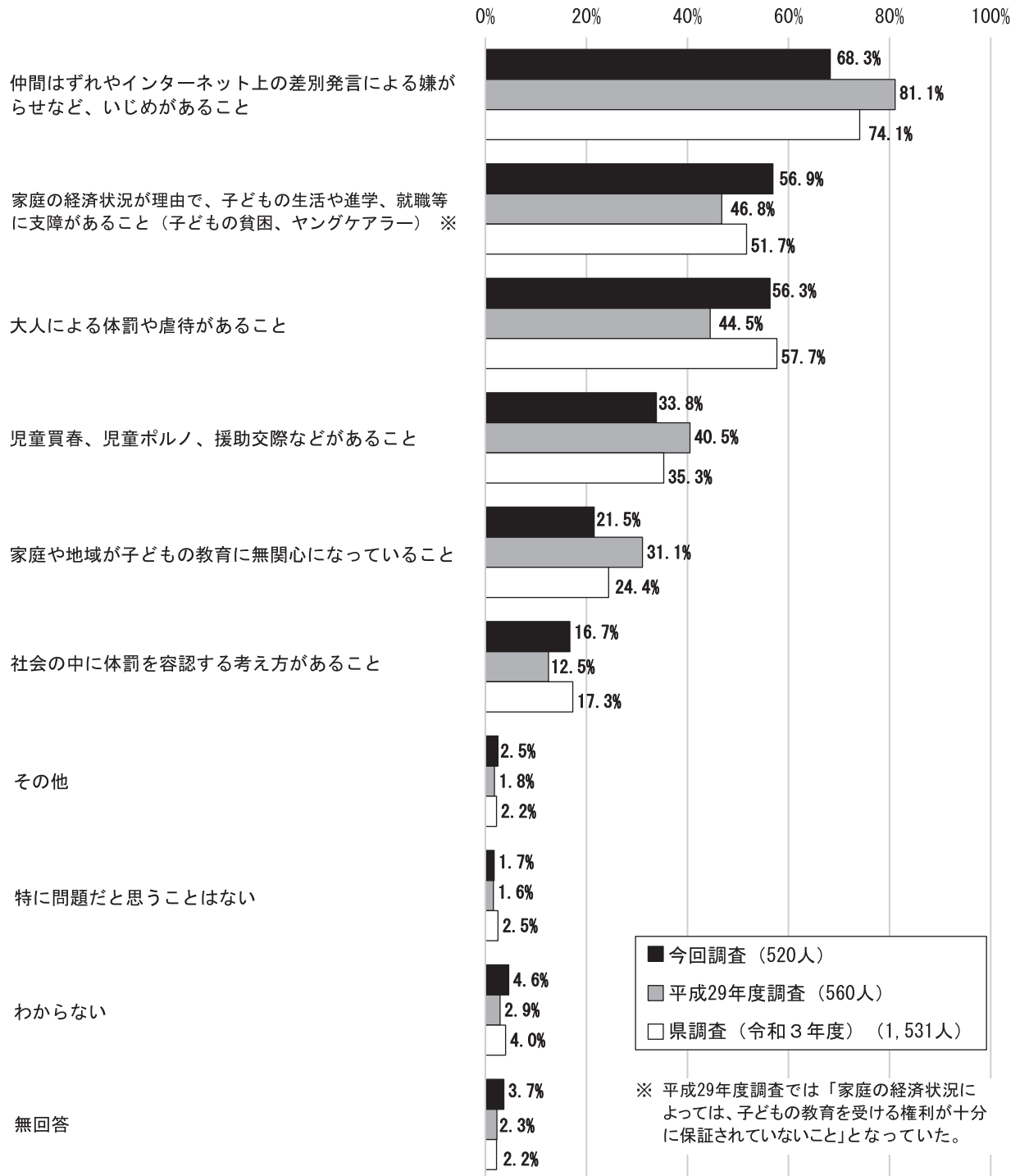
無回答



5 子どもの人権について

1. 子どもに関する人権上の問題

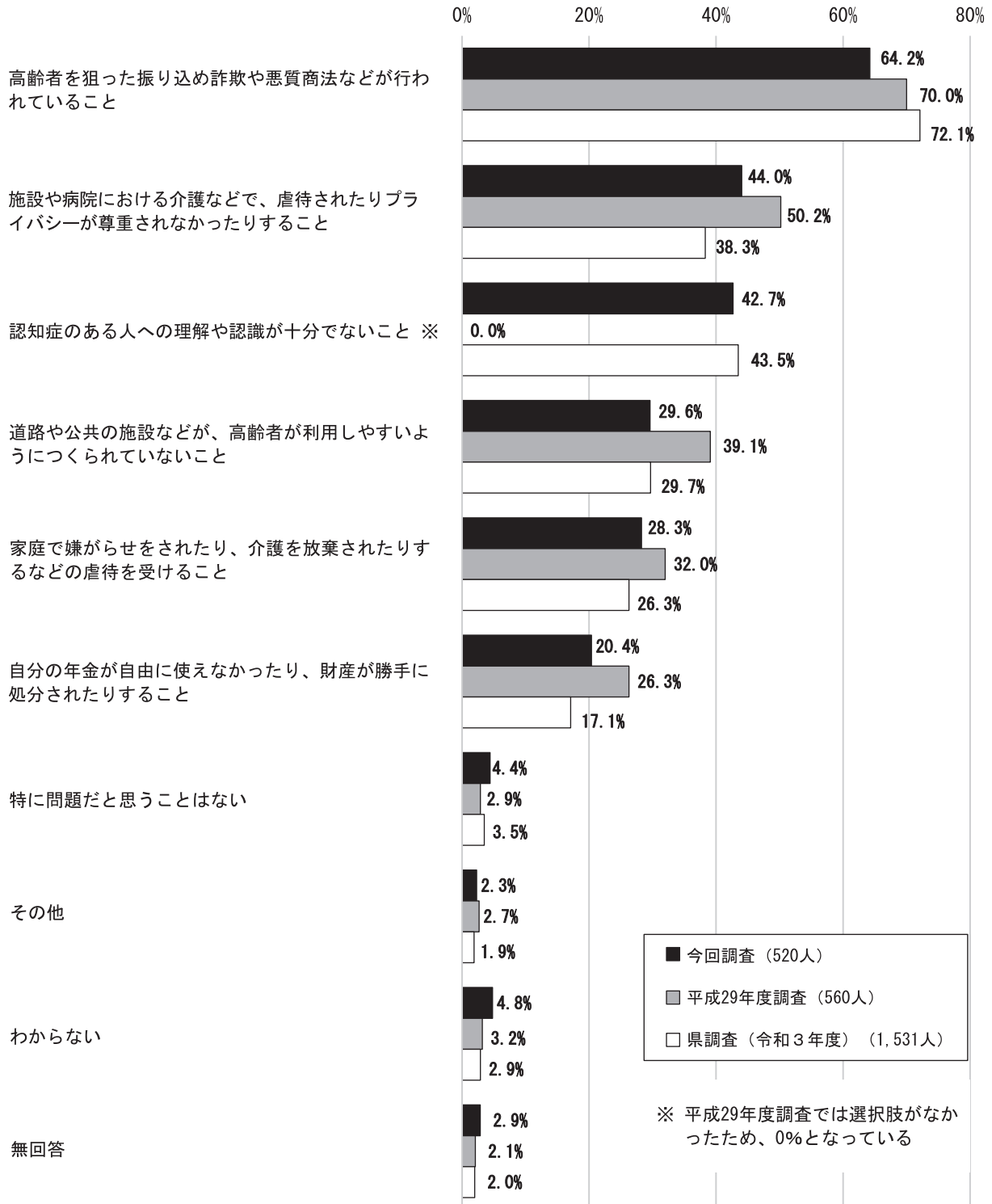
問 1 1 子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（〇はいくつでも）



6 高齢者の人権について

1. 高齢者に関する人権上の問題

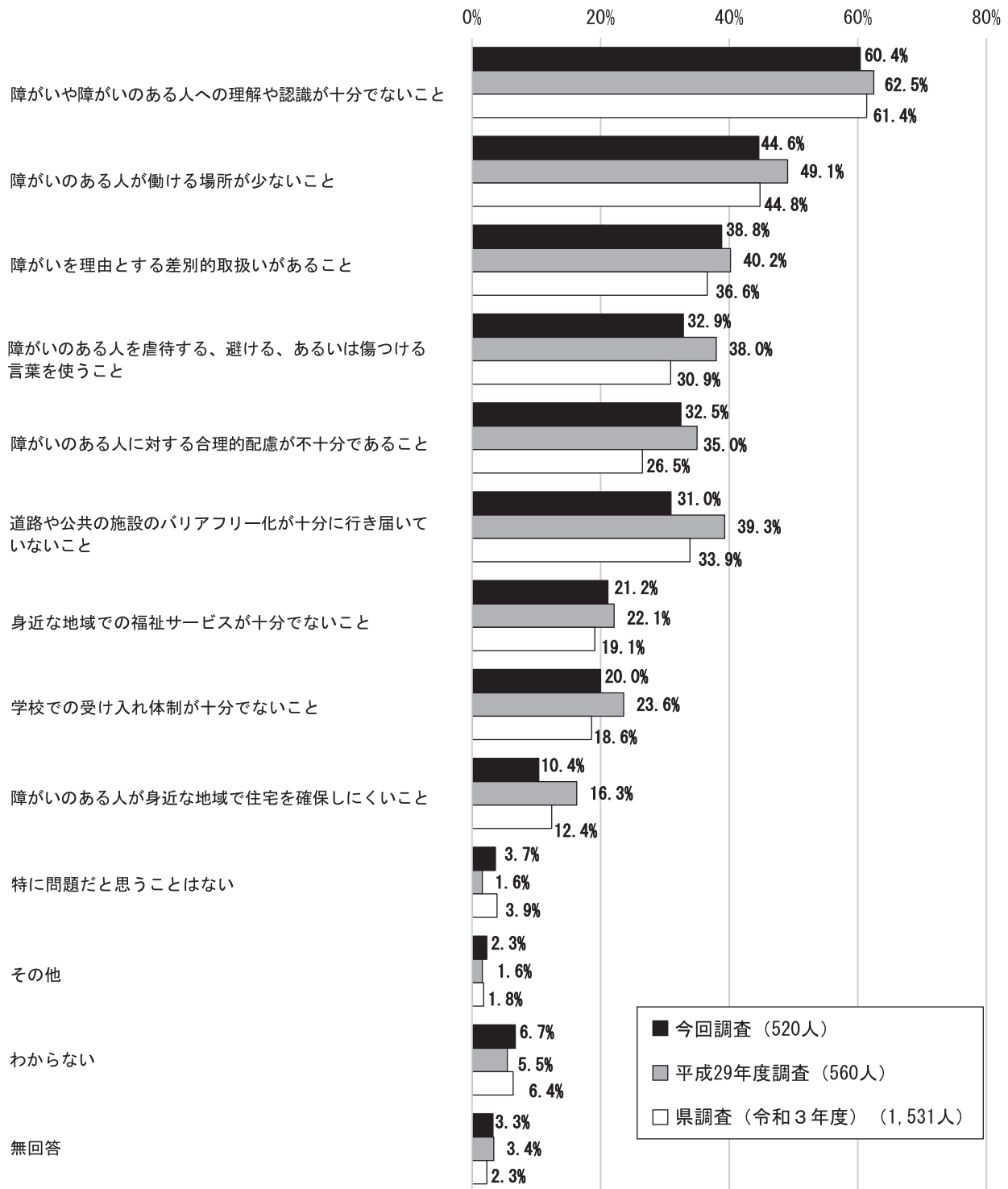
問 1 2 高齢者の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。(〇はいくつでも)



7 障がいのある人の人権について

1. 障がいのある人に関する人権上の問題

問 1 3 障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

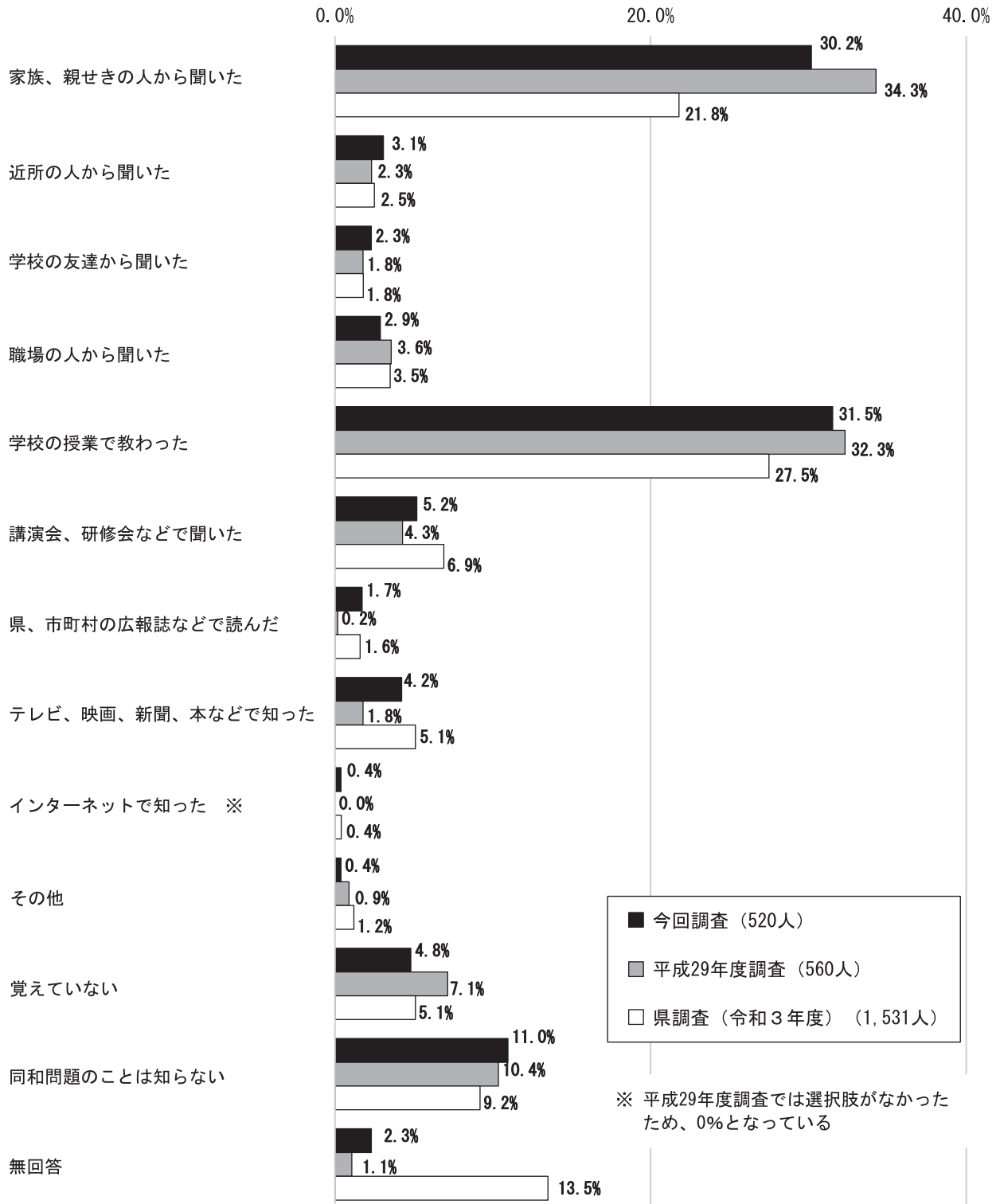


※合理的配慮：障がいのある人が日常生活や社会生活を送るうえで妨げとなる社会的障壁（利用しにくい施設、制度など）を取り除くために、状況に応じて行われる配慮。

8 同和問題について

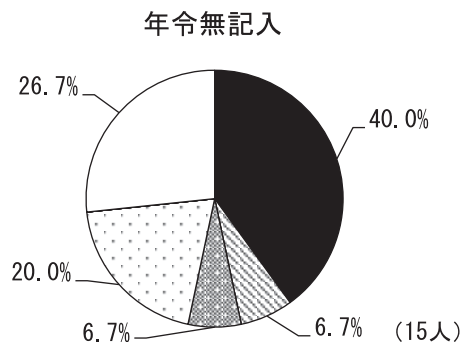
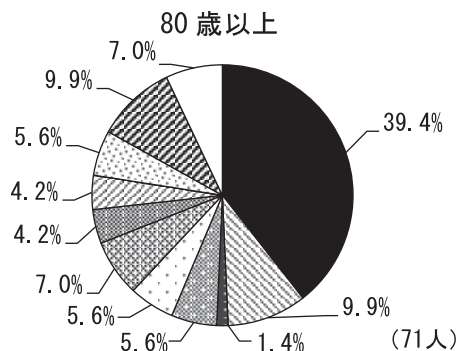
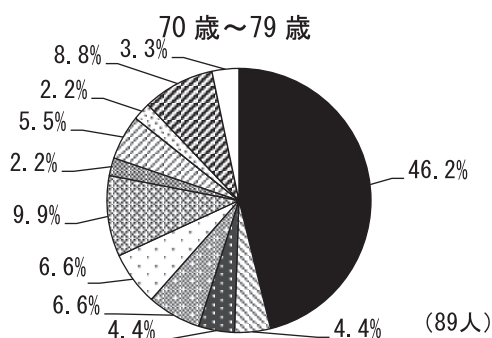
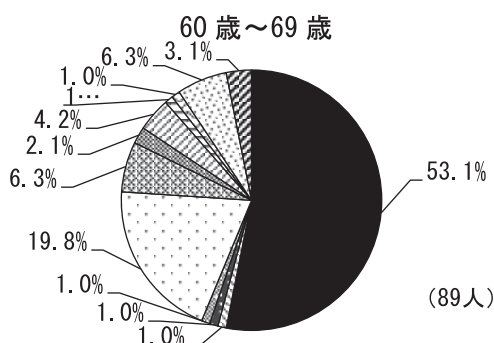
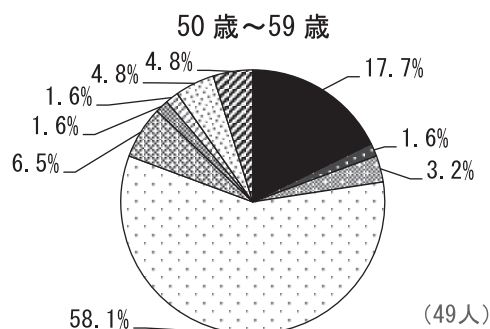
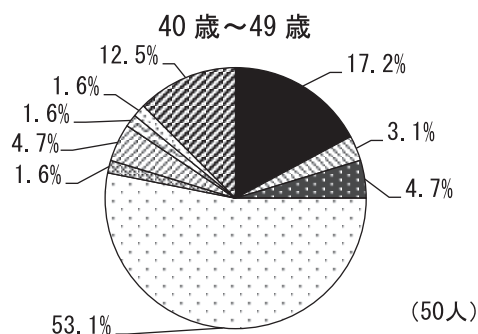
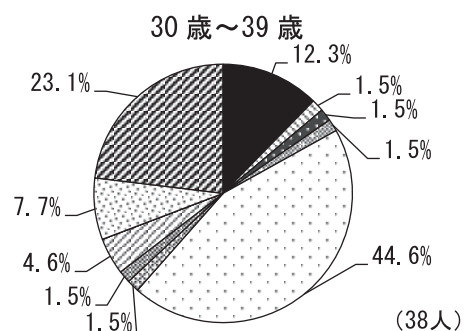
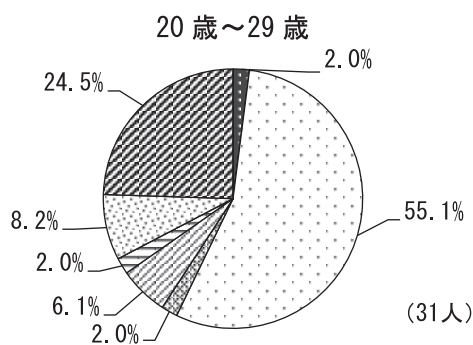
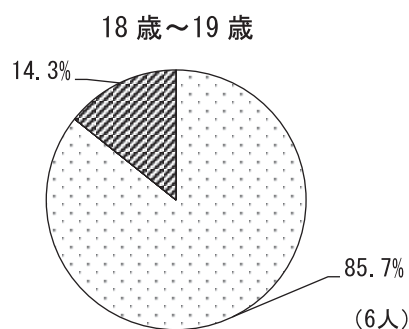
1. 同和問題の認知経路

問 1 4 同和問題について初めて知ったのは、どのようなことがきっかけでしたか。(〇は1つ)



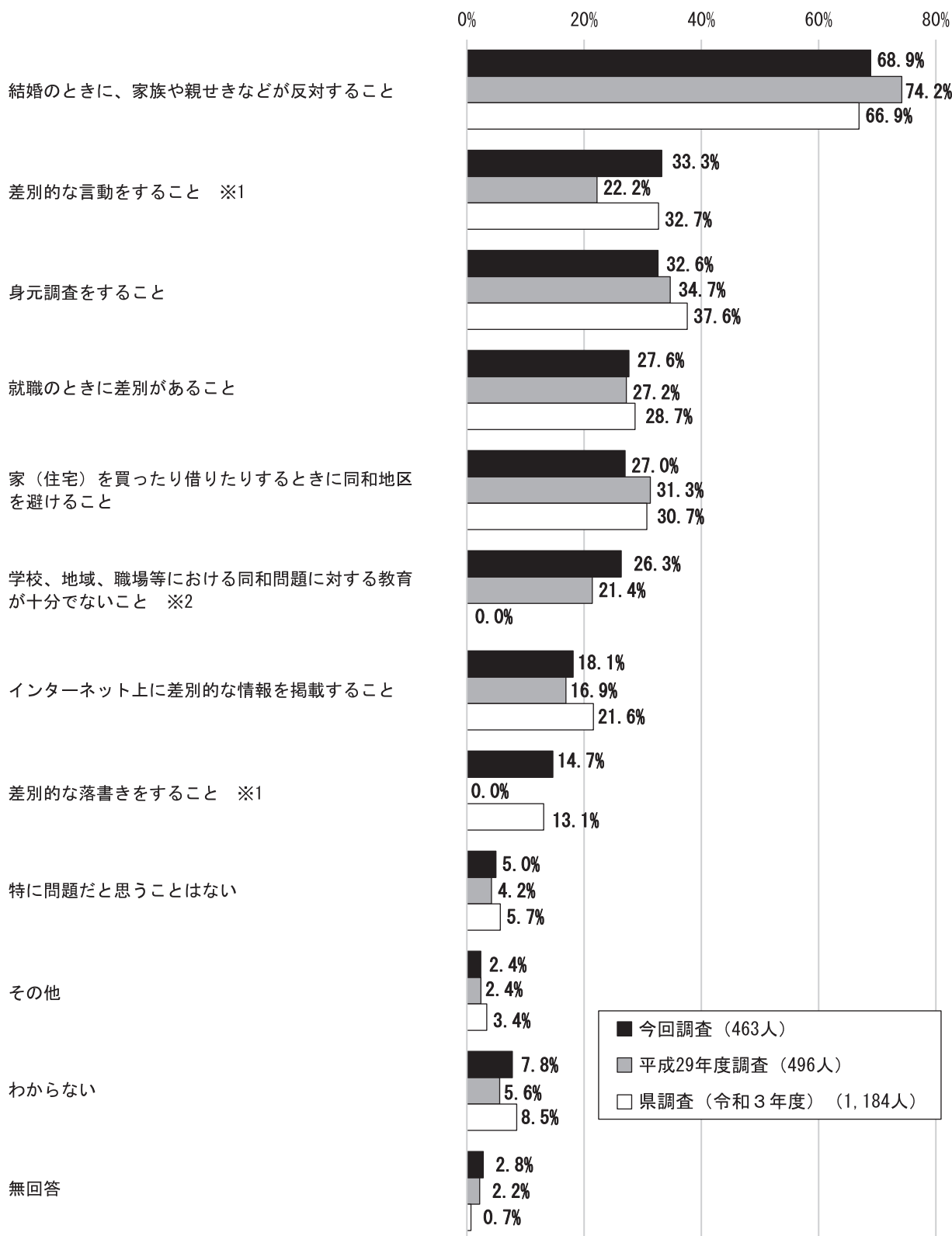
【年代別】

- 家族、親せきの人から聞いた
- ▨ 近所の人から聞いた
- ▤ 学校の友達から聞いた
- ▧ 職場の人から聞いた
- 学校の授業で教わった
- ▩ 講演会、研修会などで聞いた
- ▦ 県、市町村の広報誌などで読んだ
- ▨ テレビ、映画、新聞、本などで知った
- ▩ インターネットで知った
- ▨ その他
- ▩ 覚えていない
- ▨ 同和問題のことは知らない
- 無回答



2. 同和問題に関する人権上の問題

問 15 同和問題について、特にどのようなことが問題だと思えますか。(〇はいくつでも)



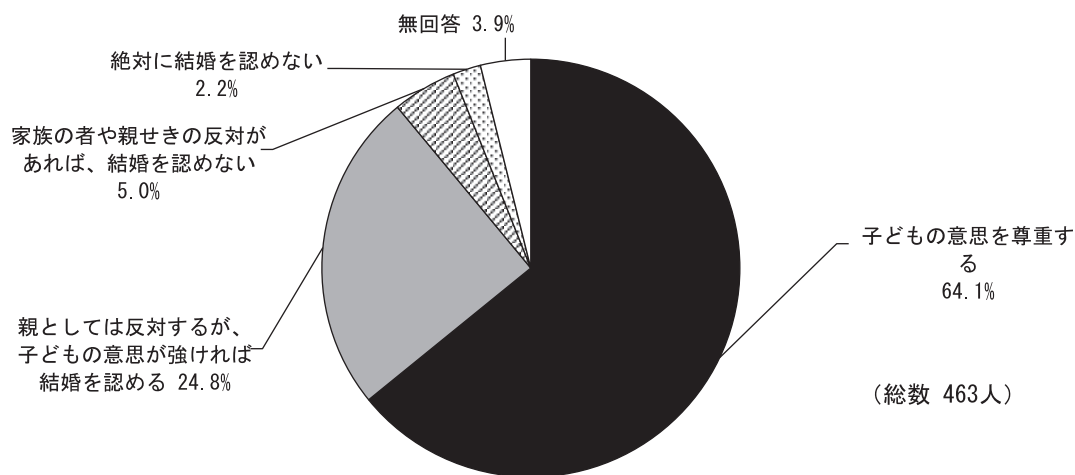
※1 平成29年度調査では「差別的な発言や落書きをすること」になっており、その数値を「差別的な言動をすること」に入れたため、「差別的な落書きをすること」の方は0%としている。

※2 令和3年度島根県調査ではこの選択肢がなかったため、0%としている。

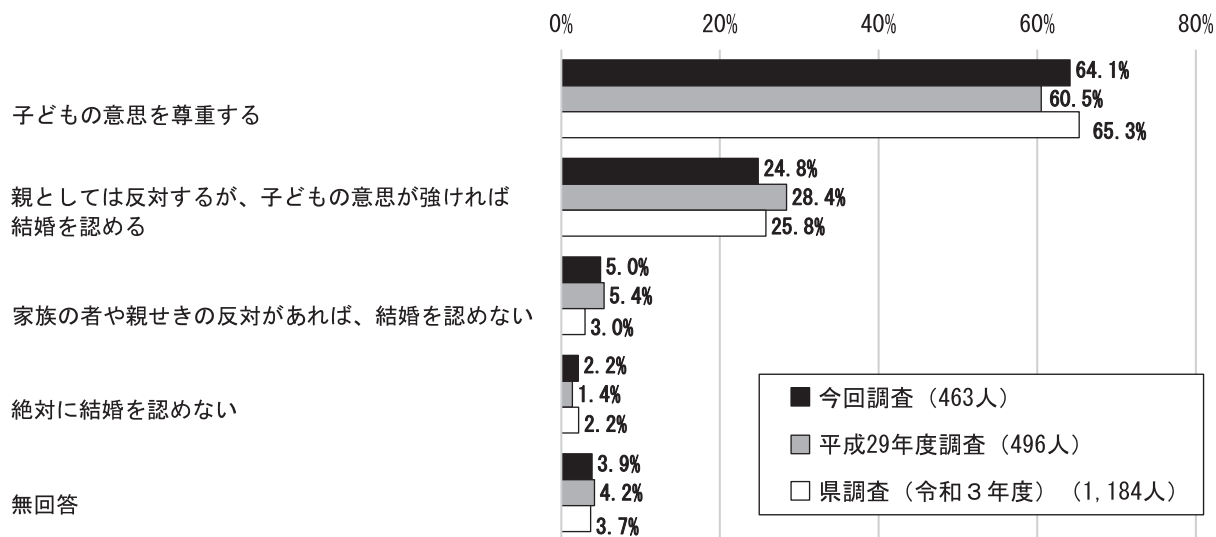
3. 同和地区出身者との結婚

問 1 6 結婚についてお尋ねします。【(1)(2)ともにお答えください】

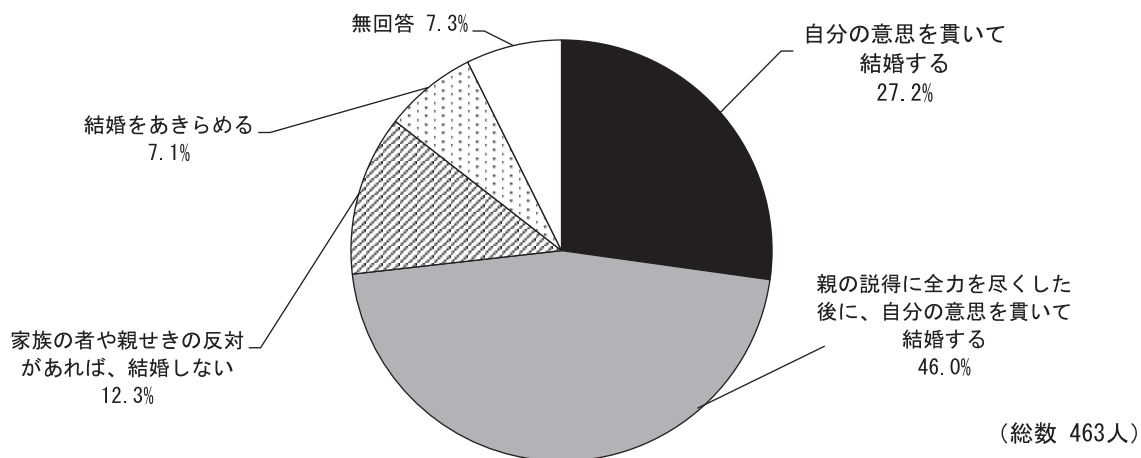
(1) 仮に、あなたのお子さんが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つ)



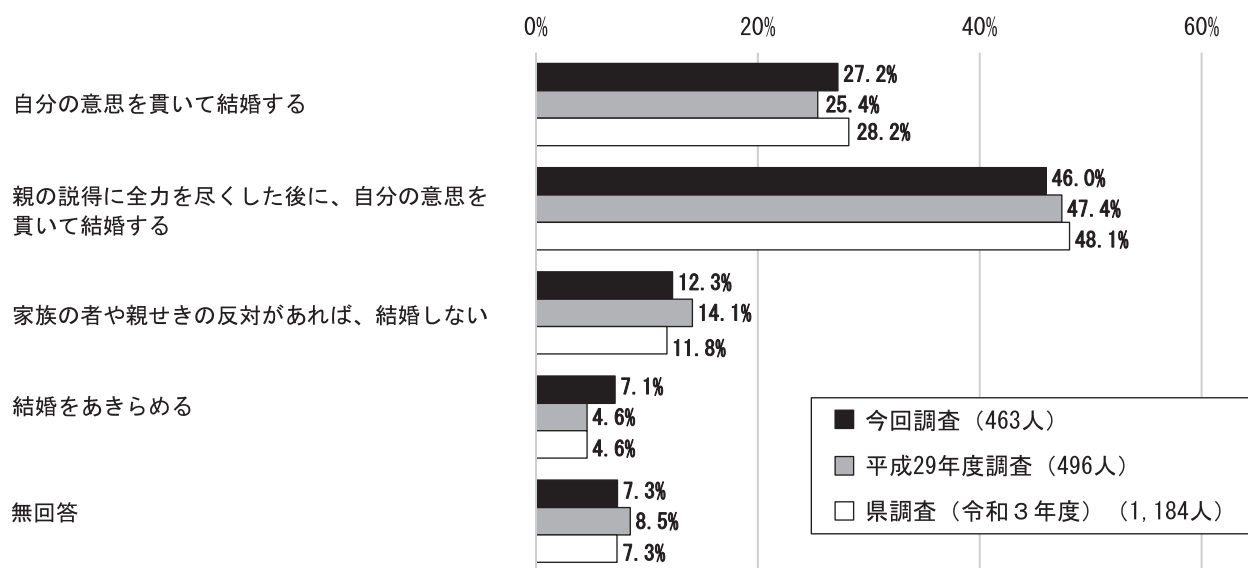
【県比較・経年比較】



(2) 仮に、あなたが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、親や親せきから強い反対を受けた場合、あなたはどのようにしますか。(〇は1つ)

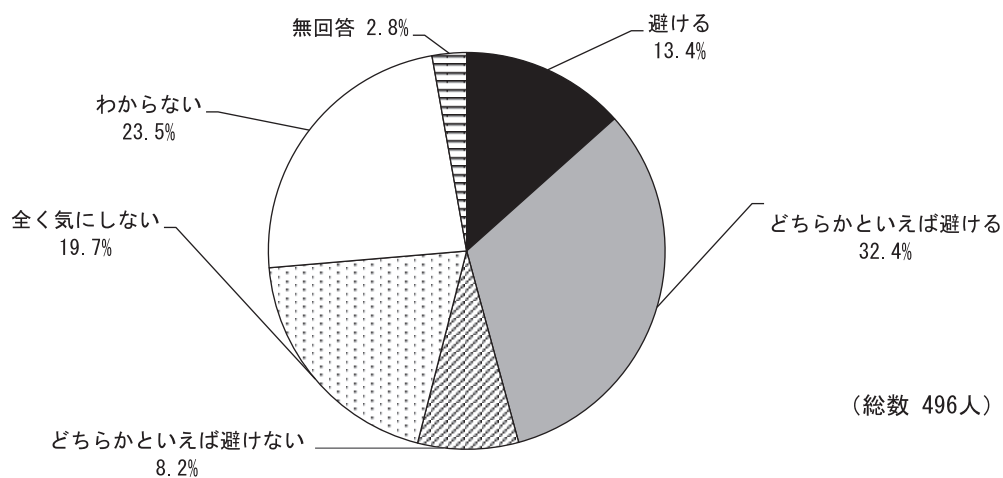


【県比較・経年比較】

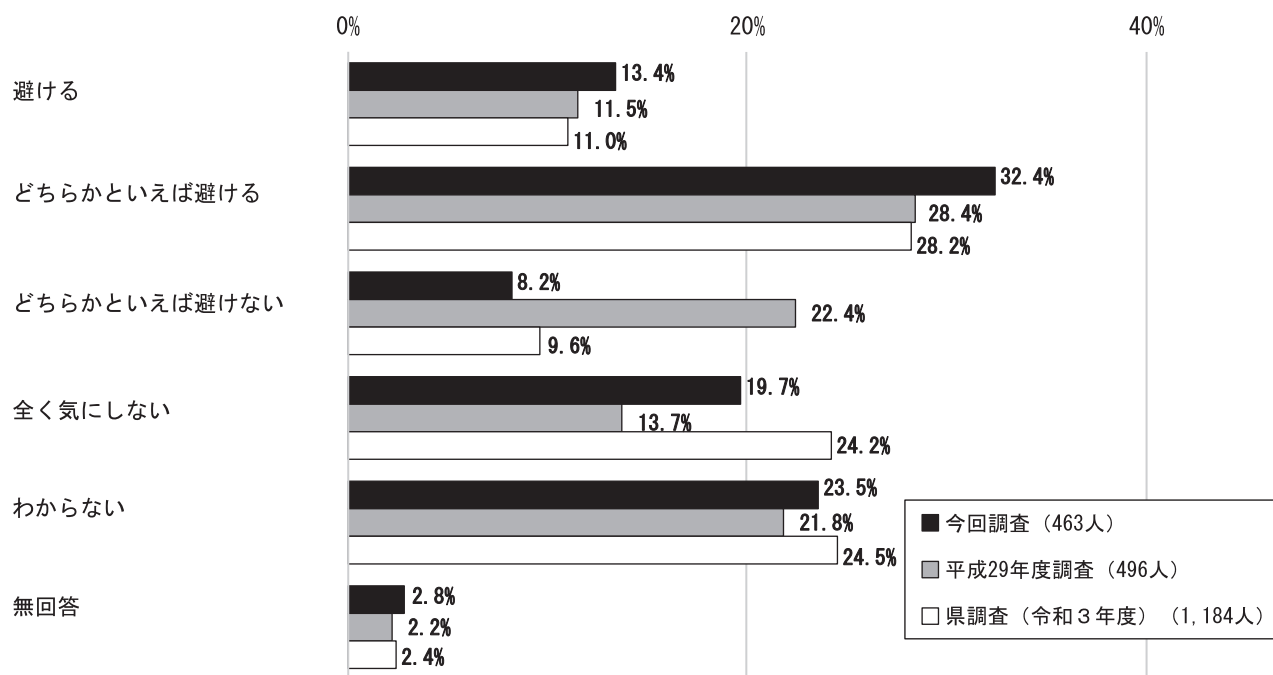


4. 同和地区にある家（住宅）の購入

問 17 仮にあなたが家（住宅）を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望にあっても、その物件が同和地区にあるとわかったら、あなたはどうしますか（○は1つ）

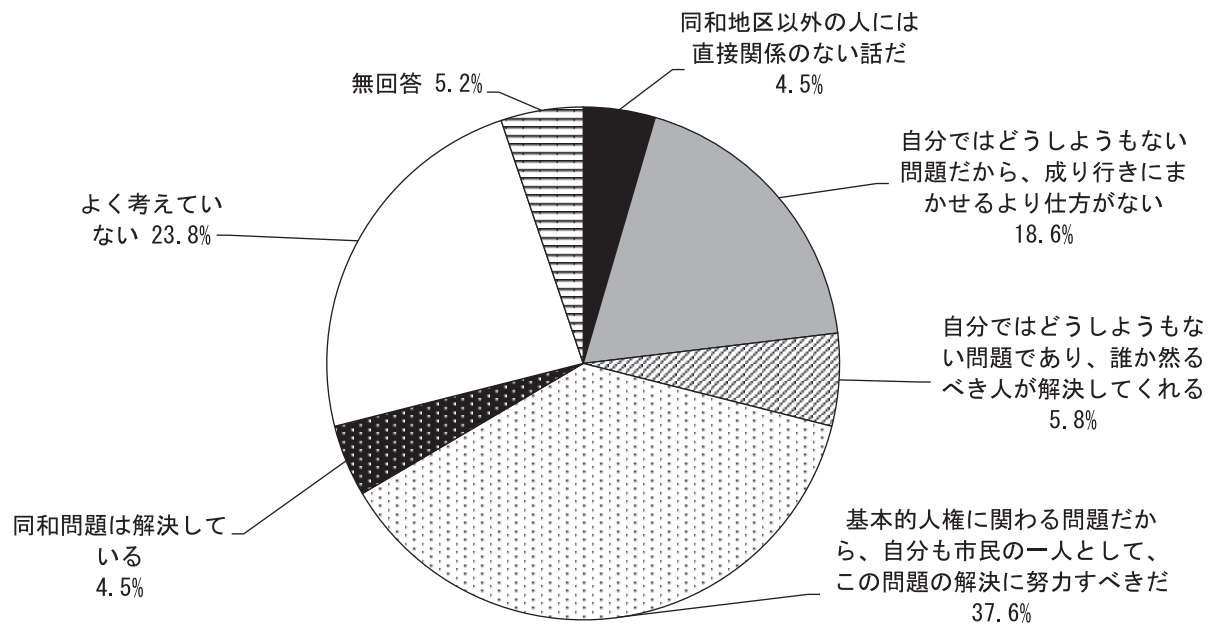


【県比較・経年比較】



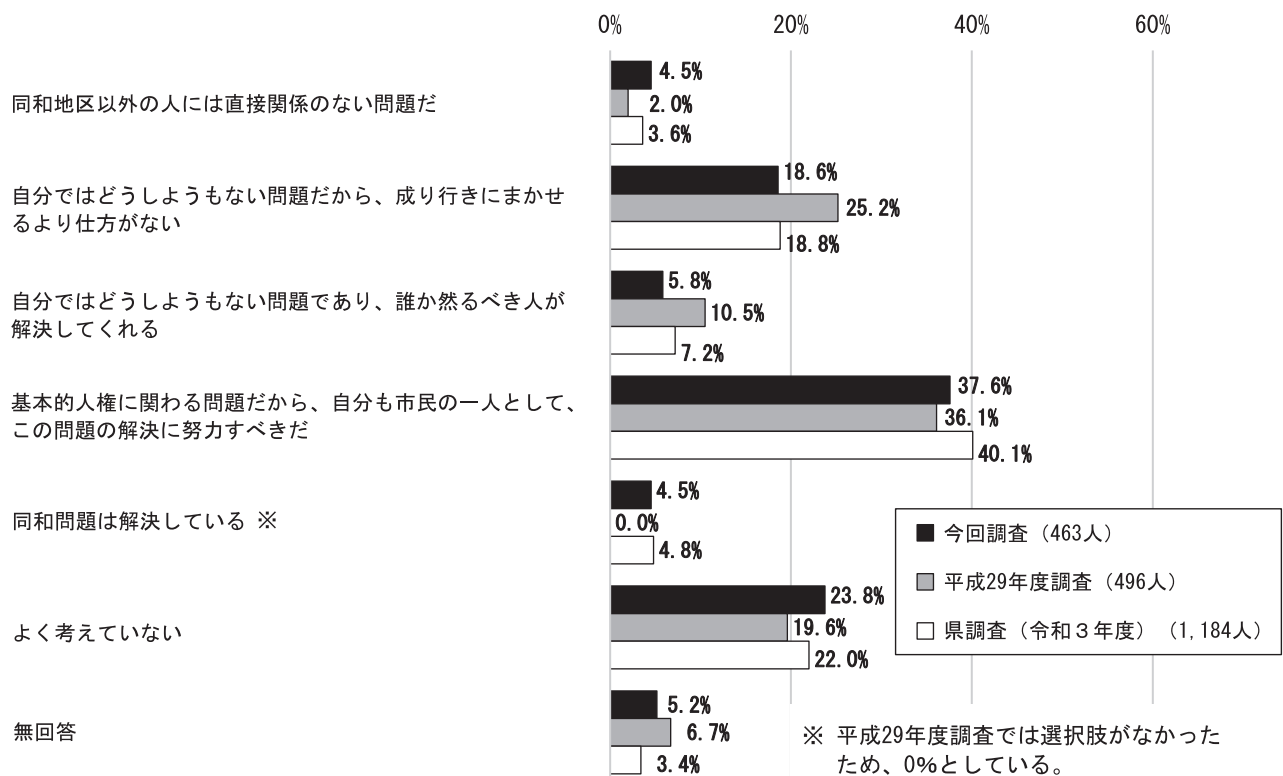
5. 同和問題の解決に対する考え方

問 18 同和問題は、あなたにとってどんな問題ですか。(○は1つ)



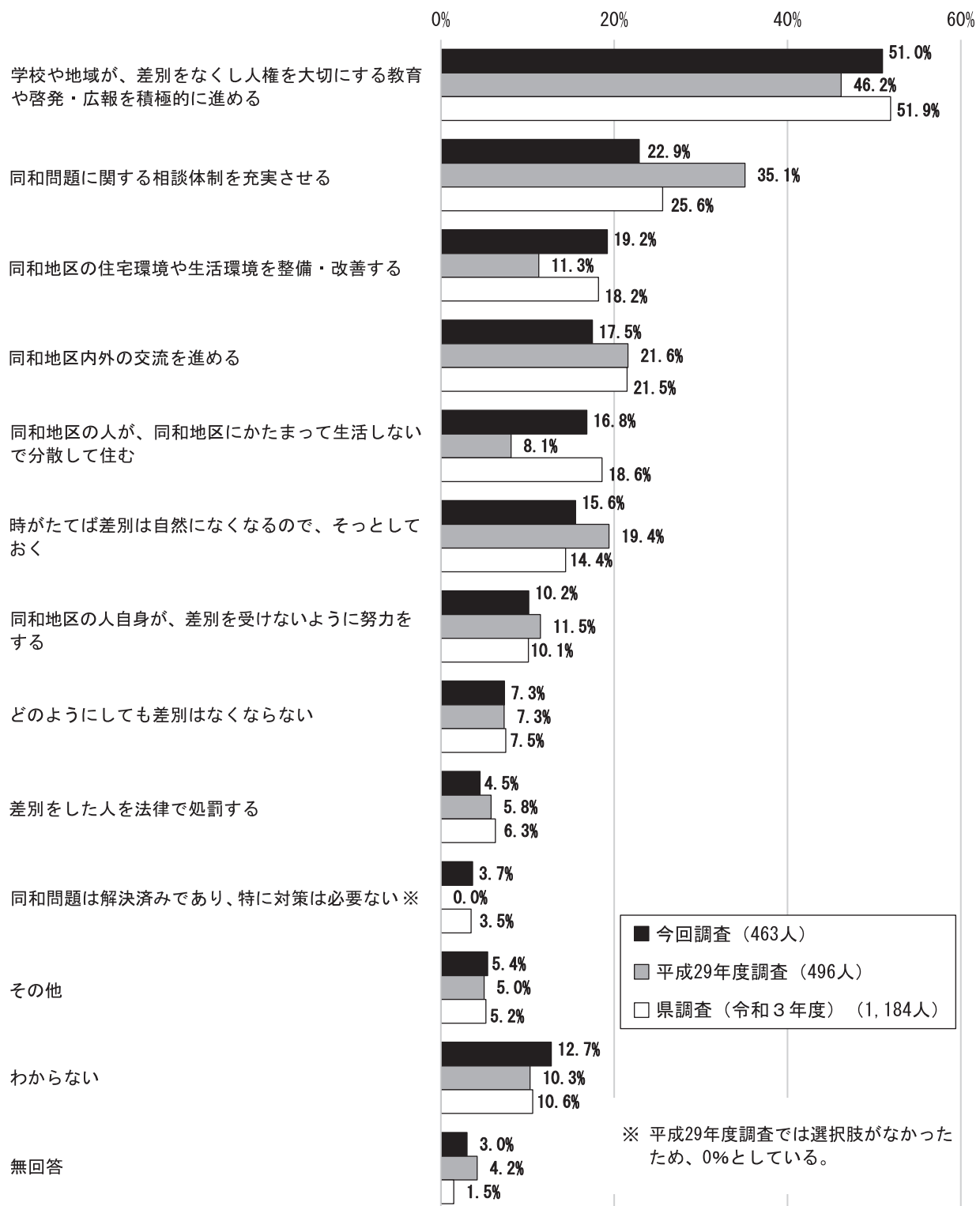
(総数 463人)

【県比較・経年比較】



6. 同和問題の解決に必要なこと

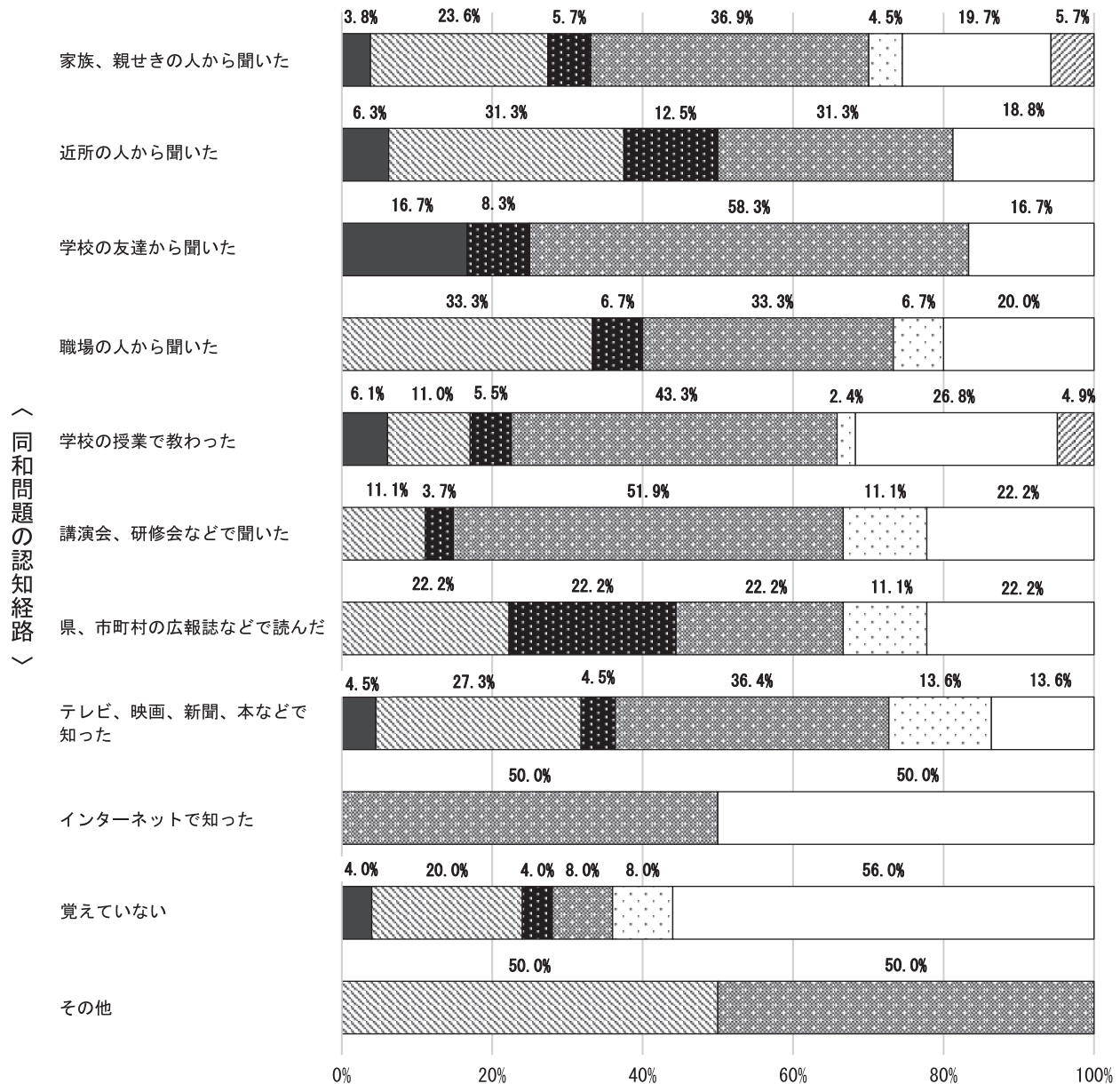
問 19 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)



資料：設問間クロス集計

問１４「同和問題の認知経路」と問１８「同和問題解決に対する考え」との比較

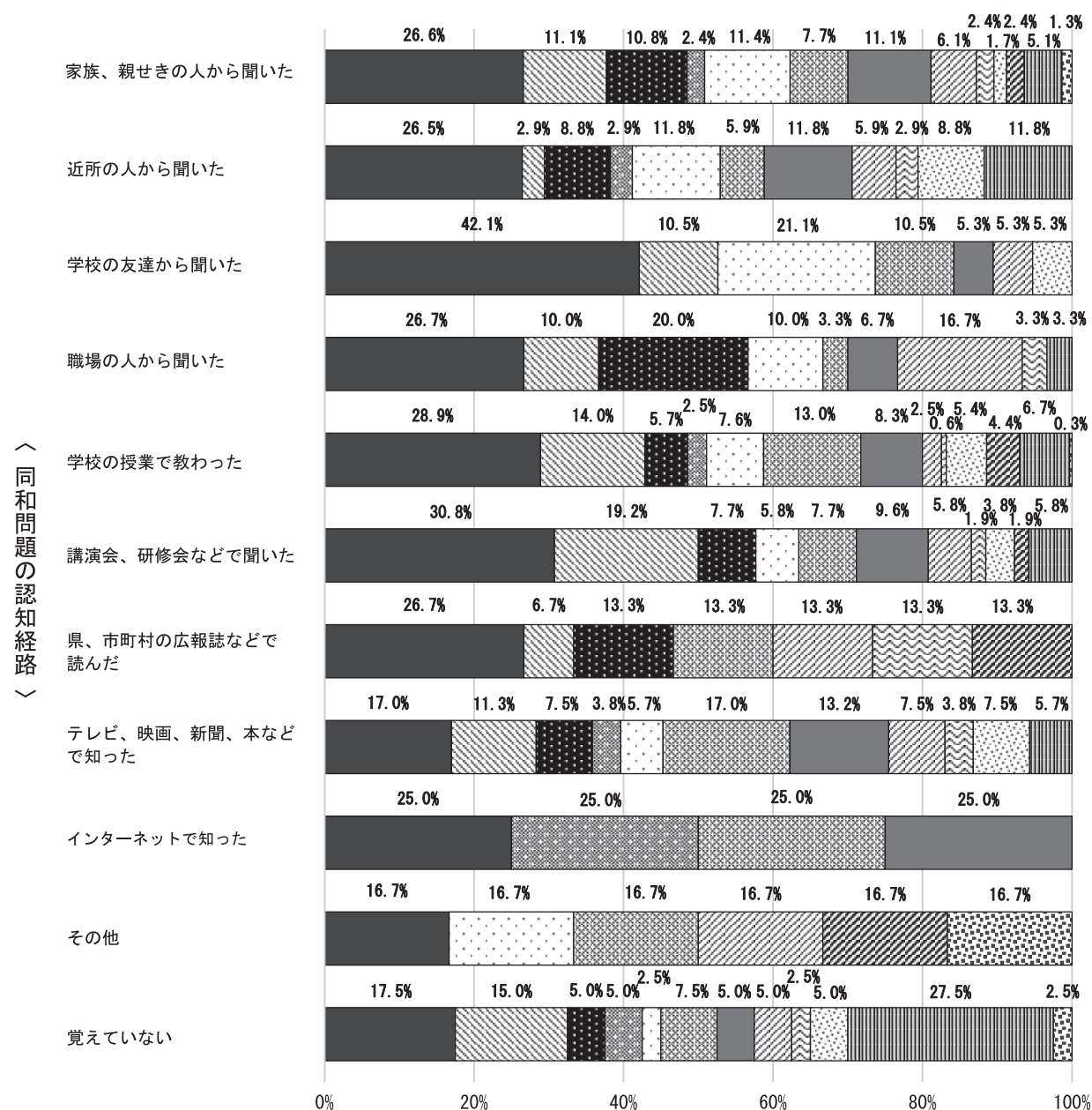
＜同和問題解決に対する考え＞



- 同和地区以外の人には直接関係のない問題だ
- ▨ 自分ではどうしようもない問題だから、成り行きにまかせるより仕方がない
- 自分ではどうしようもないが、関係する人たちが解決してくれる
- ▨ 自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- 同和問題は解決している
- よく考えていない
- ▨ 無回答

問１４「同和問題の認知経路」と問１９「同和問題の解決のためは、どうしたら良いと思うか」との比較

＜同和問題の解決のためには、どうしたら良いと思うか＞

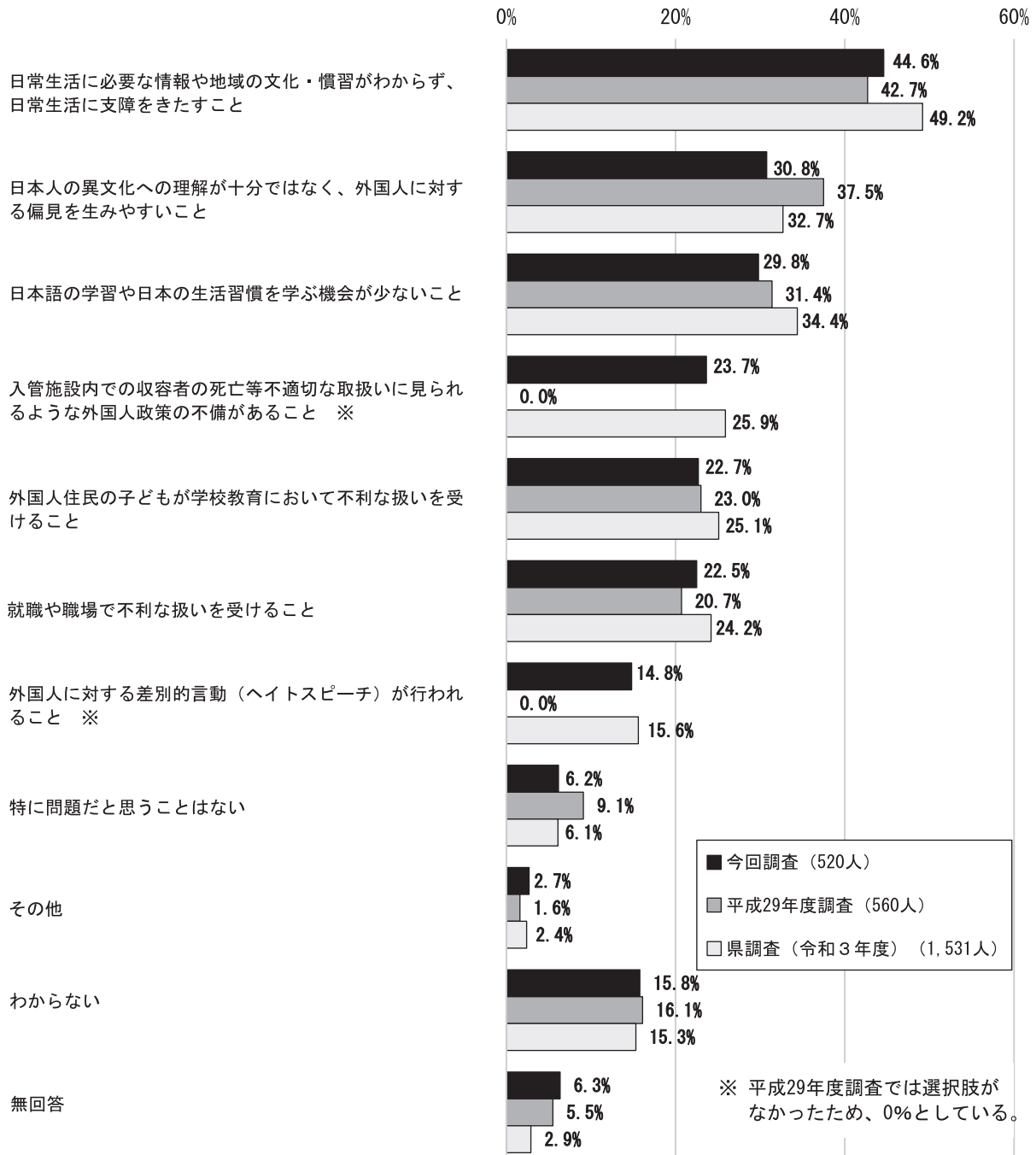


- 人権を大切に
- 同和問題に関する相談ができる体制を充実させる
- 時がたてば差別は自然に
- 差別をした人を法律で処罰する
- 同和地区の人が、同和地区以外に分散して住む
- 同和地区の住環境や生活環境を、更に整備・改善する
- 同和地区内外の交流をすすめる
- 同和地区の人自身が、差別を受けないように努力をする
- 同和問題は解決済みであり、特に対策は必要ない
- どのようにしても差別は
- その他
- わからない
- 無回答

9 外国人の人権について

1. 外国人に対する人権上の課題

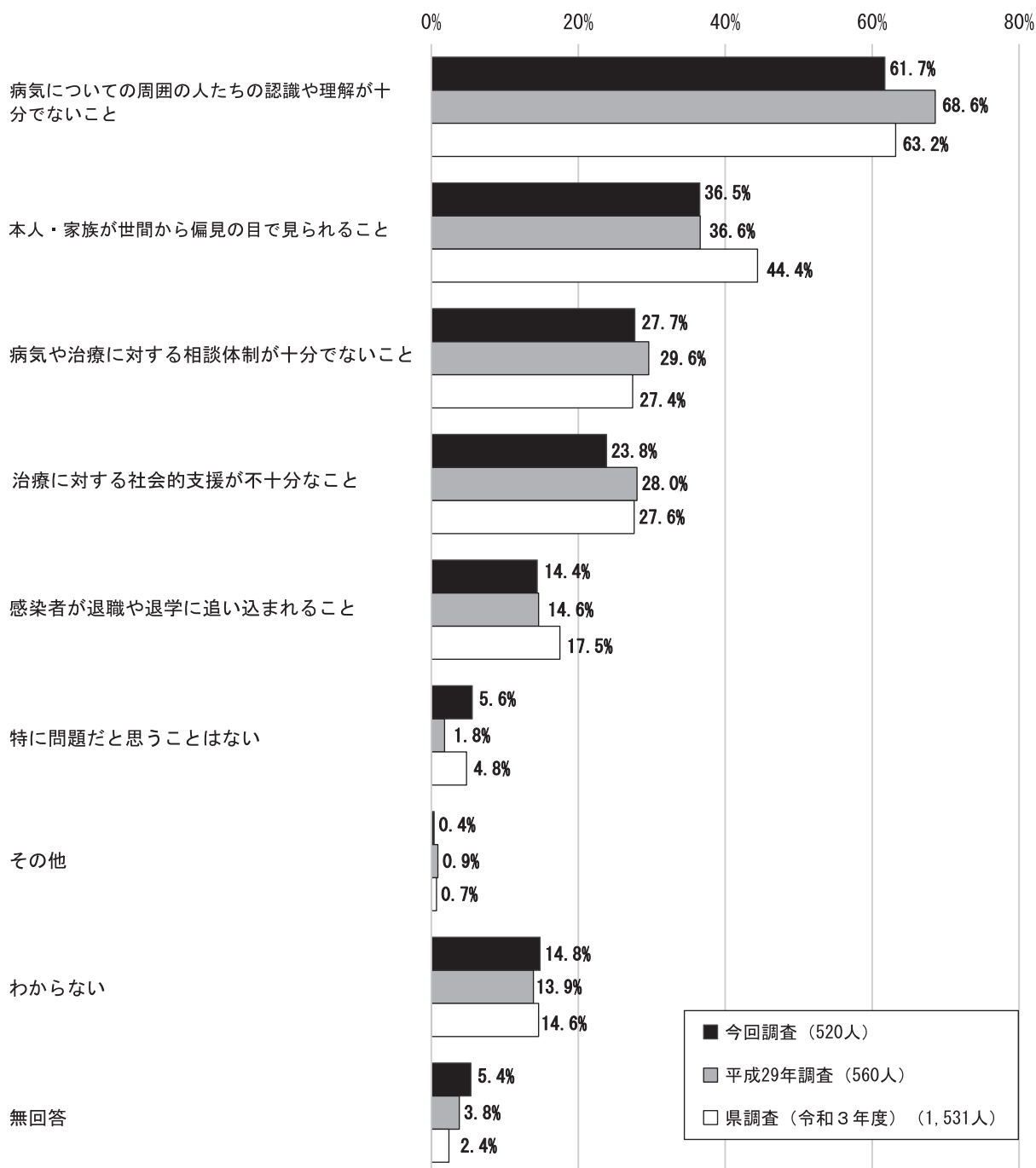
問20 日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(〇はいくつでも)



10 患者及び感染者等の人権について

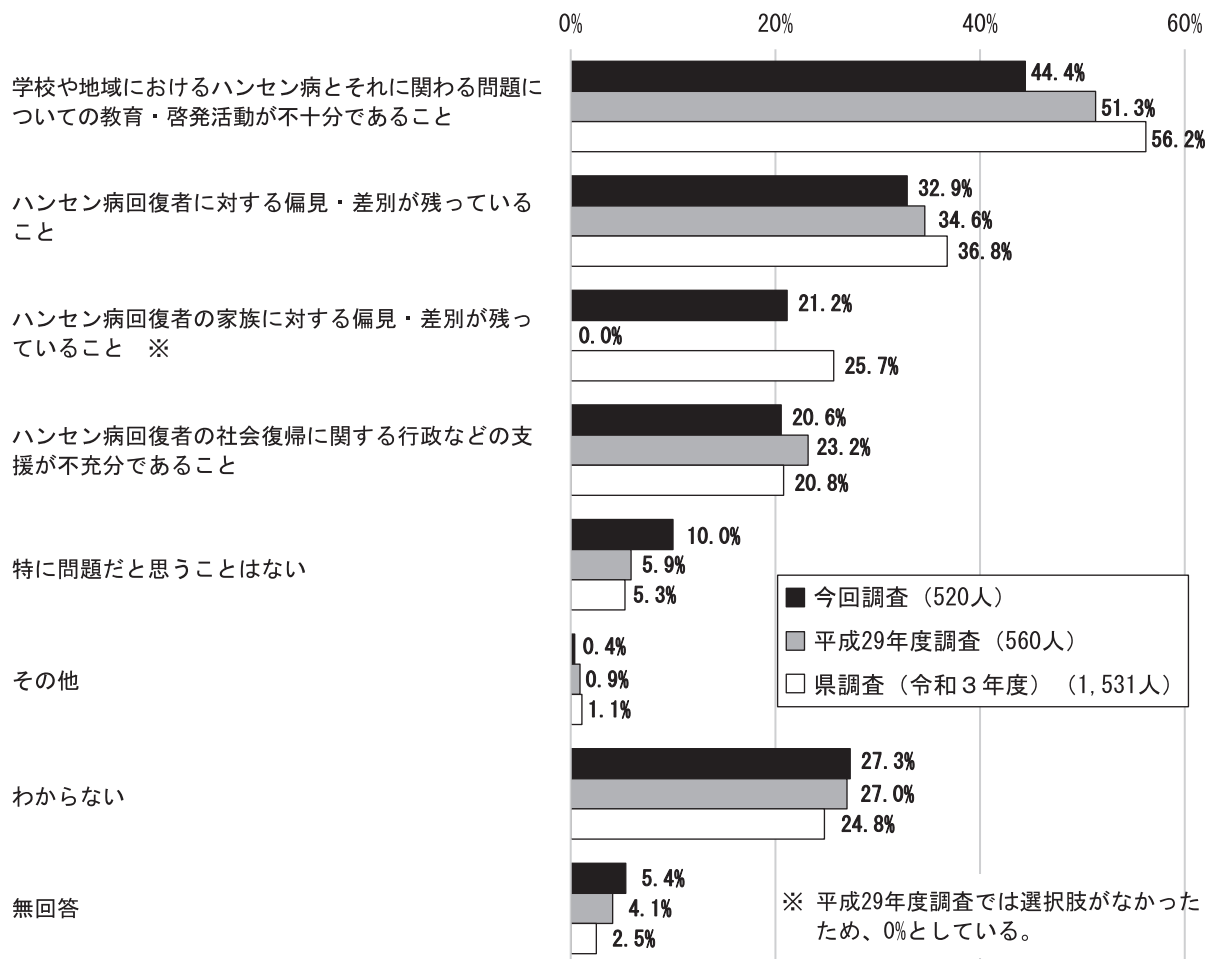
1. HIV感染者及び肝炎ウイルス感染者等に関する人権上の問題

問21 HIV（エイズの原因ウイルス）感染者及び肝炎ウイルス感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（〇はいくつでも）



2. ハンセン病回復者に関する人権上の問題

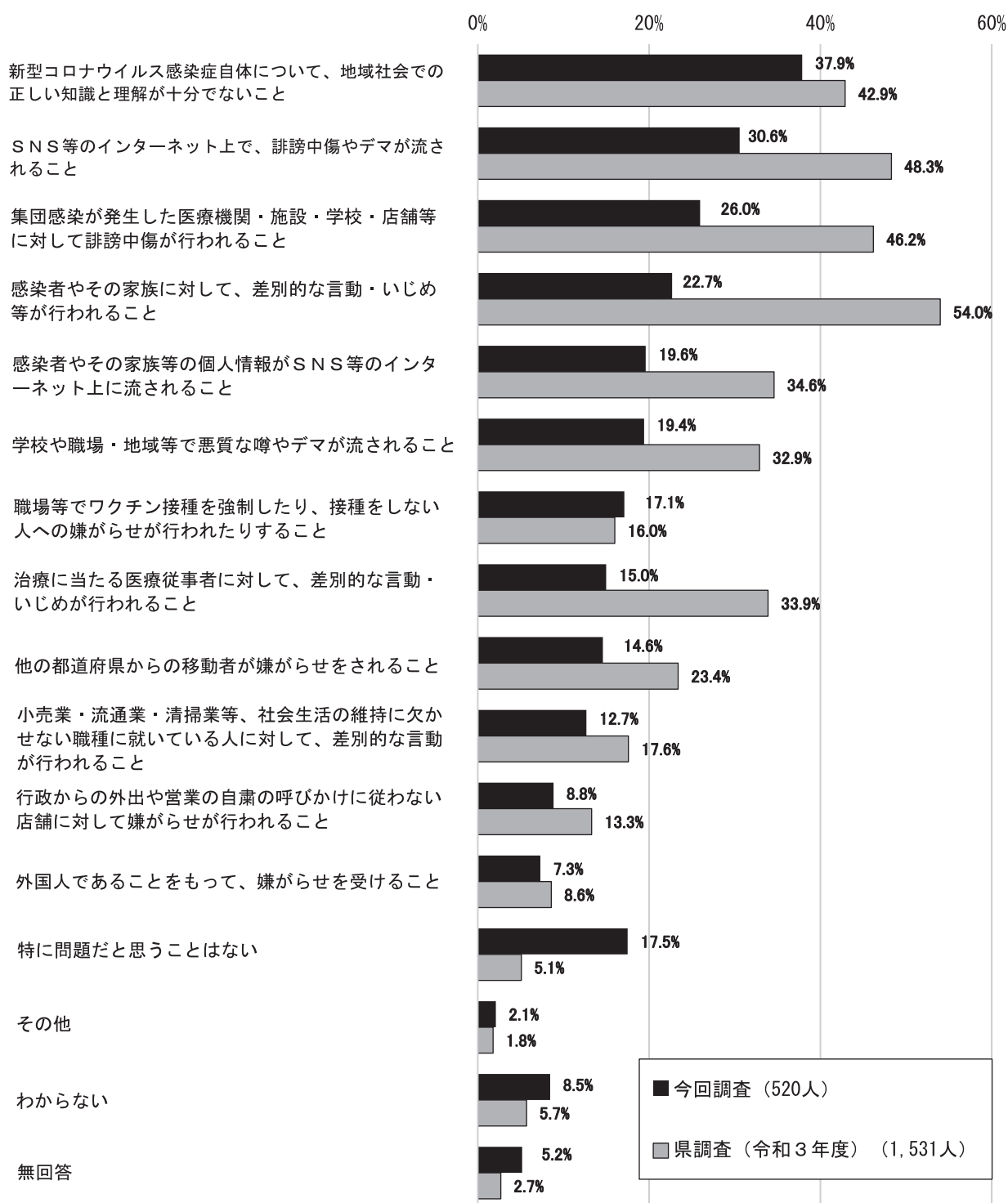
問22 ハンセン病（※）回復者の人権について、特にどのような問題だと思いますか。
（〇はいくつでも）



※ハンセン病：「らい菌」の感染によって起こる病気で、以前は後遺症が残る場合もあったが、感染力は非常に弱く、今では国内の新規発病者は年間数人程度で、完全に治る病気になっている。

3. 新型コロナウイルス感染症に関する人権上の問題

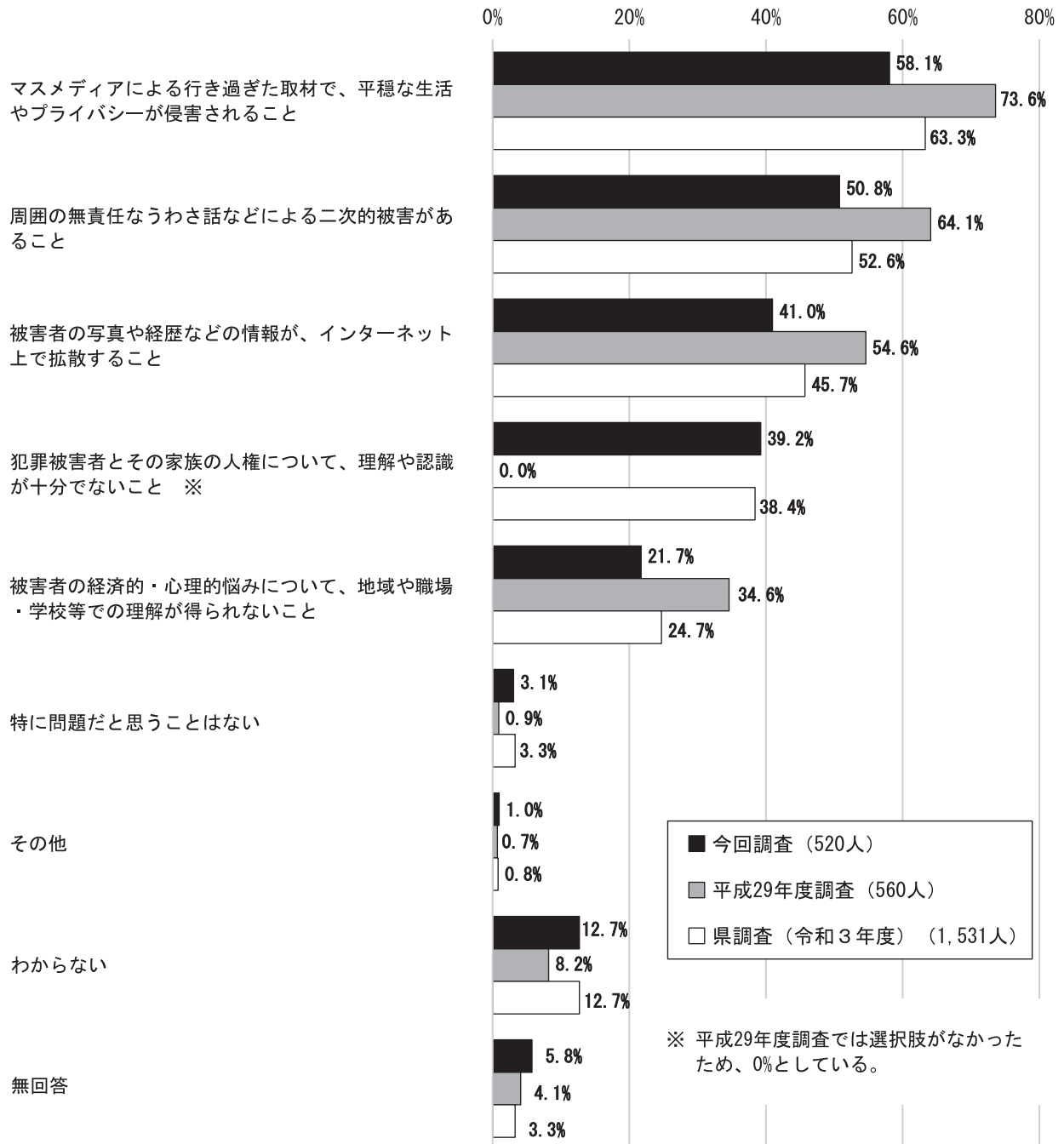
問 2 3 新型コロナウイルス感染症に関わる人権について、特にどのようなことが問題だと思えますか。（〇はいくつでも）



1 1 犯罪被害者とその家族の人権について

1. 犯罪被害者とその家族に関する人権上の問題

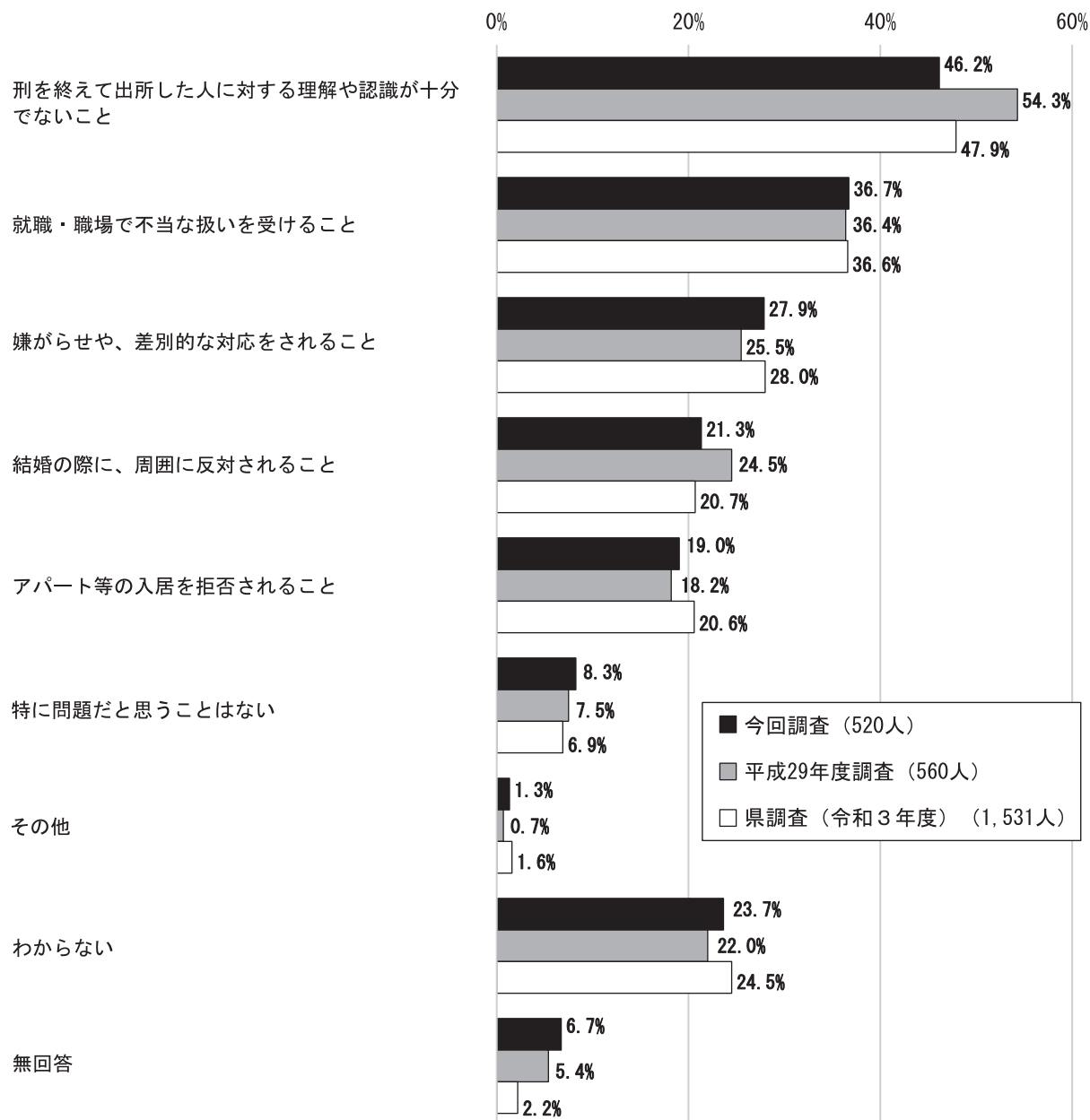
問 2 4 犯罪被害者とその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(〇はいくつでも)



1 2 刑を終えて出所した人の人権について

1. 刑を終えて出所した人に関する人権上の問題

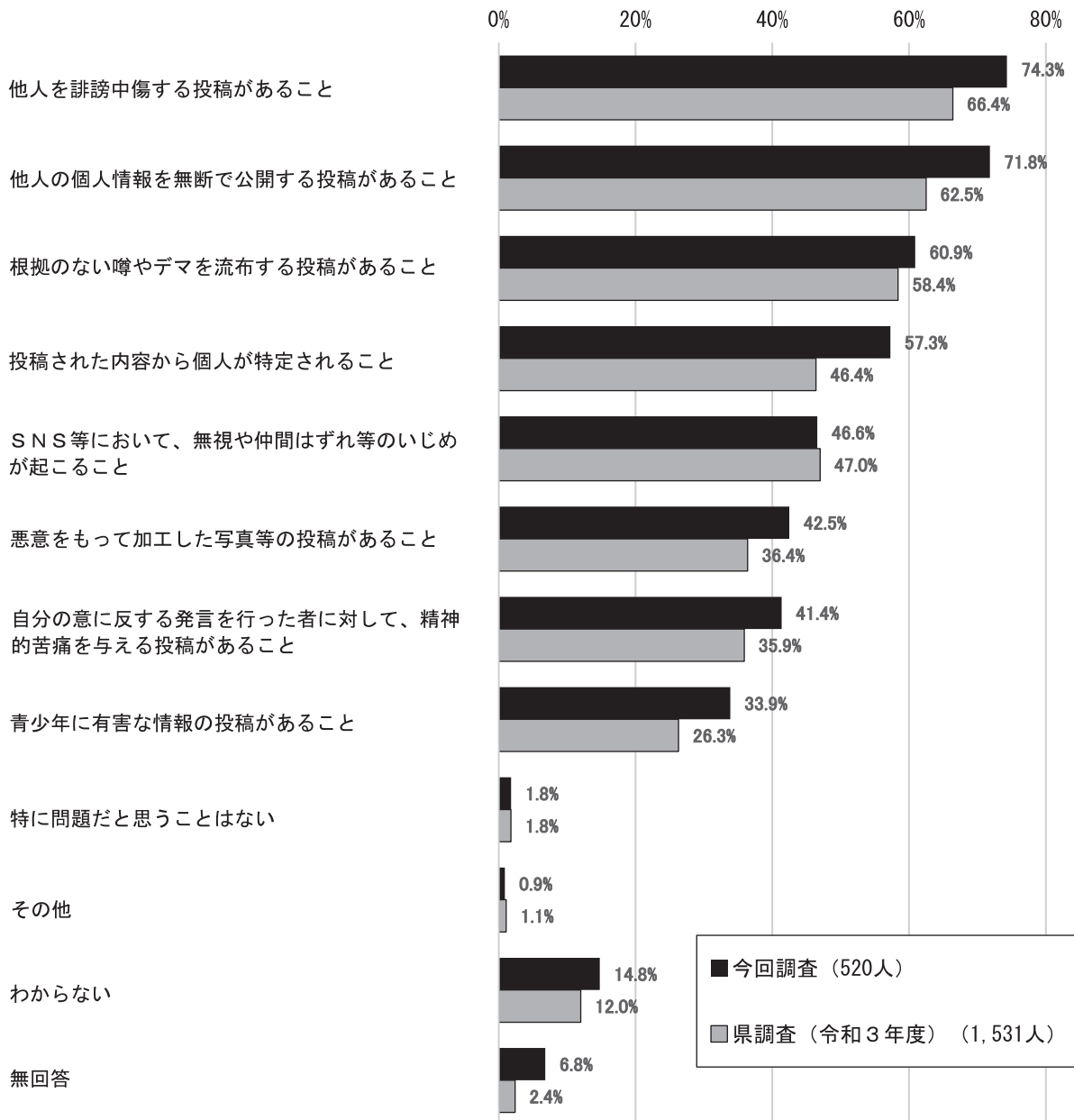
問 2 5 刑を終えて出所した人の人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)



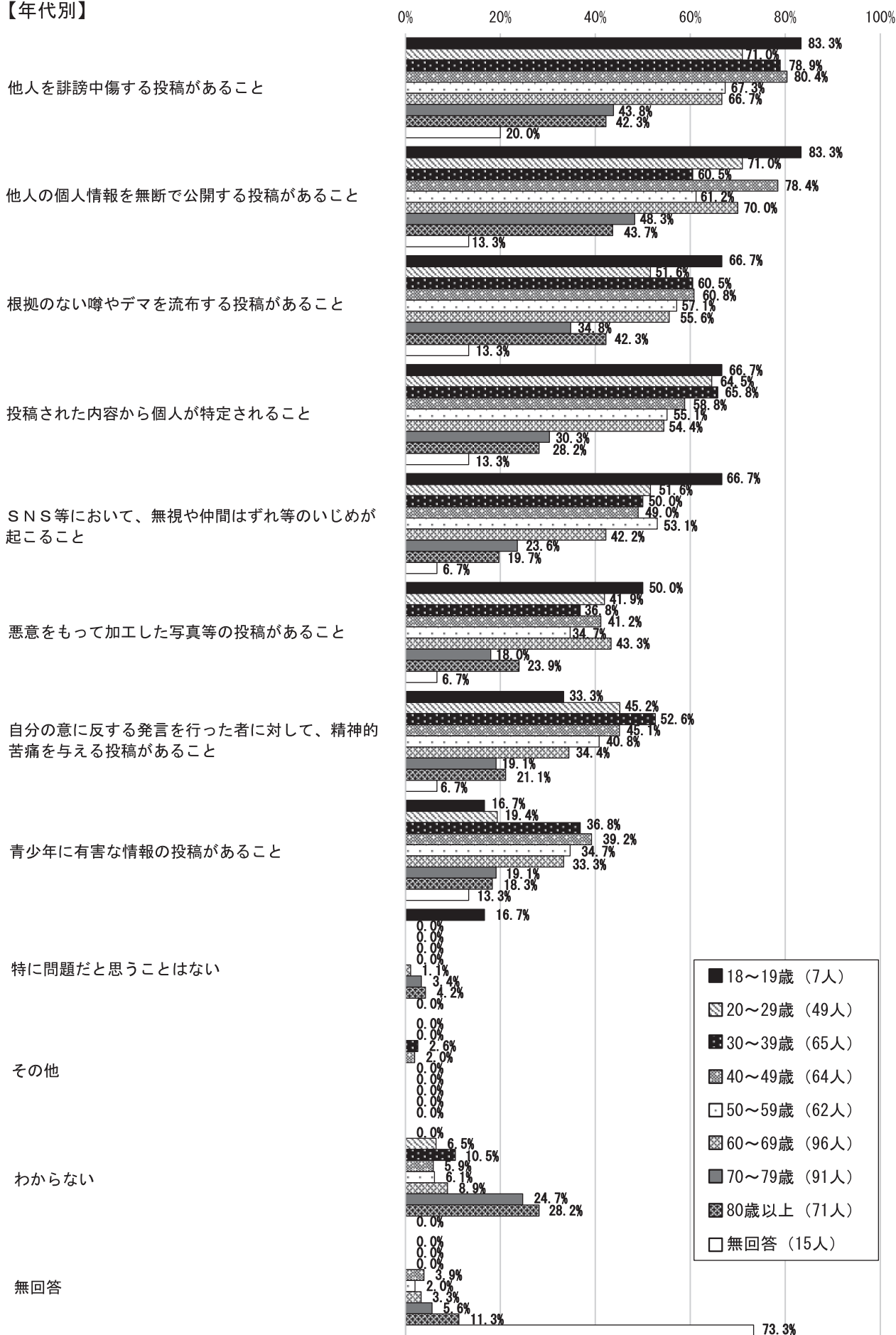
1 3 インターネットによる人権侵害について

1. インターネットによる人権侵害について

問 2 6 インターネット上の人権侵害に関して、特にどのようなことが問題だと思いますか。
(○はいくつでも)

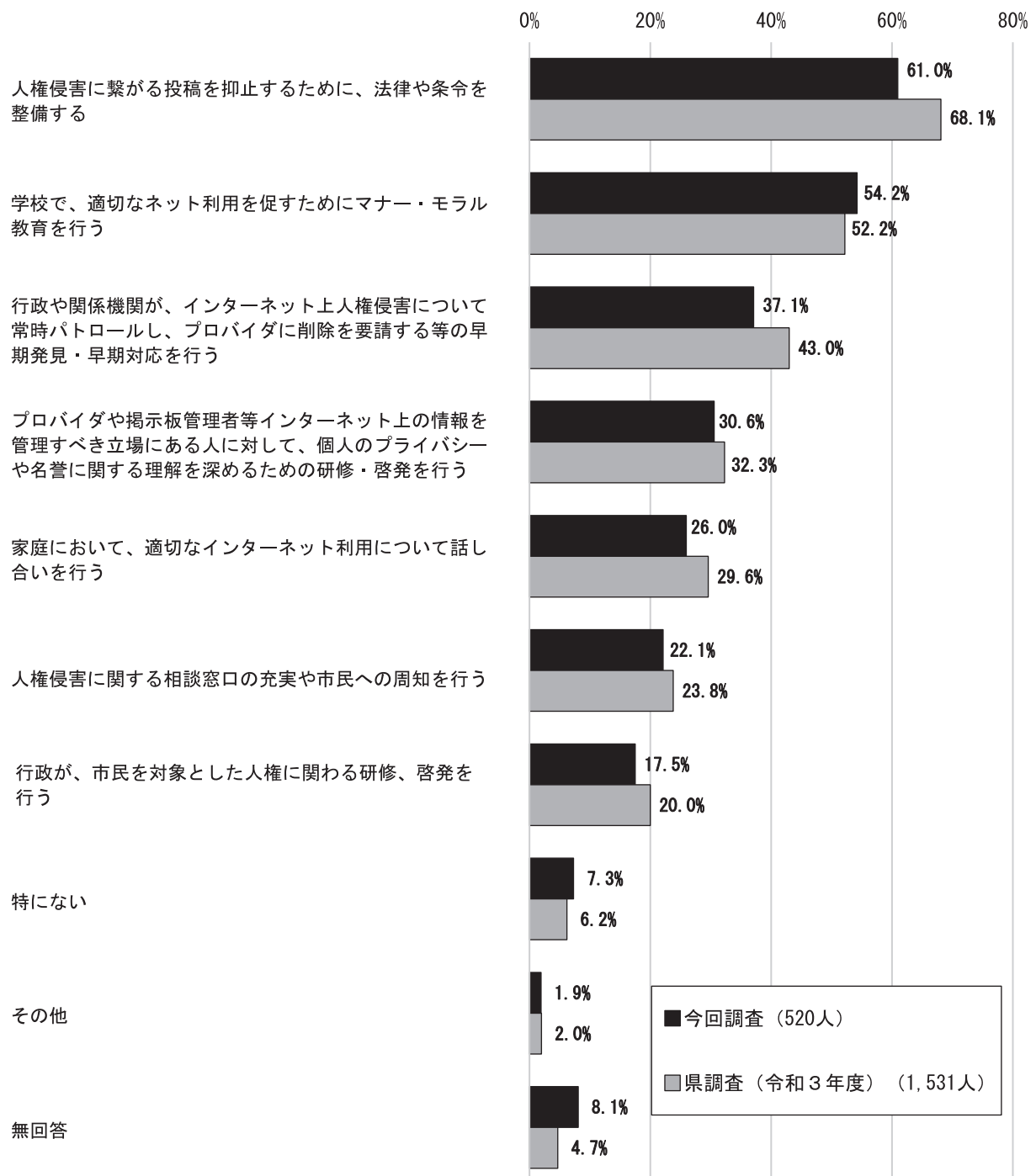


【年代別】



2. インターネット上の人権侵害をなくすための対策

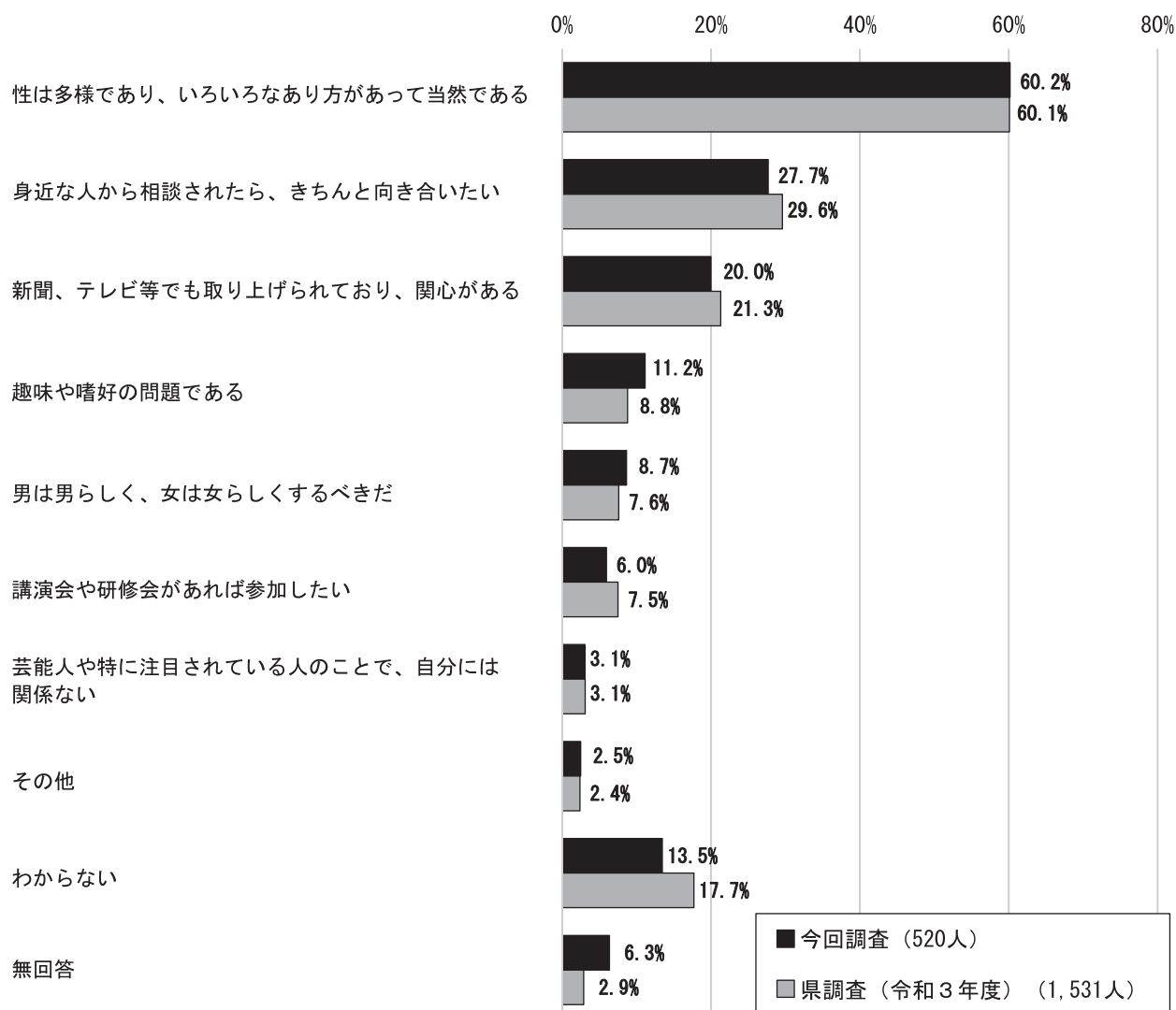
問27 インターネット上の人権侵害をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



1 4 性的指向・性自認等（L G B T等）に関わる人権について

1. 性的指向・性自認等（L G B T等）（※）に関する人権についての考え

問 2 8 性的指向・性自認等（L G B T等）に関わる人権について、あなたはどのように考えますか。（〇はいくつでも）

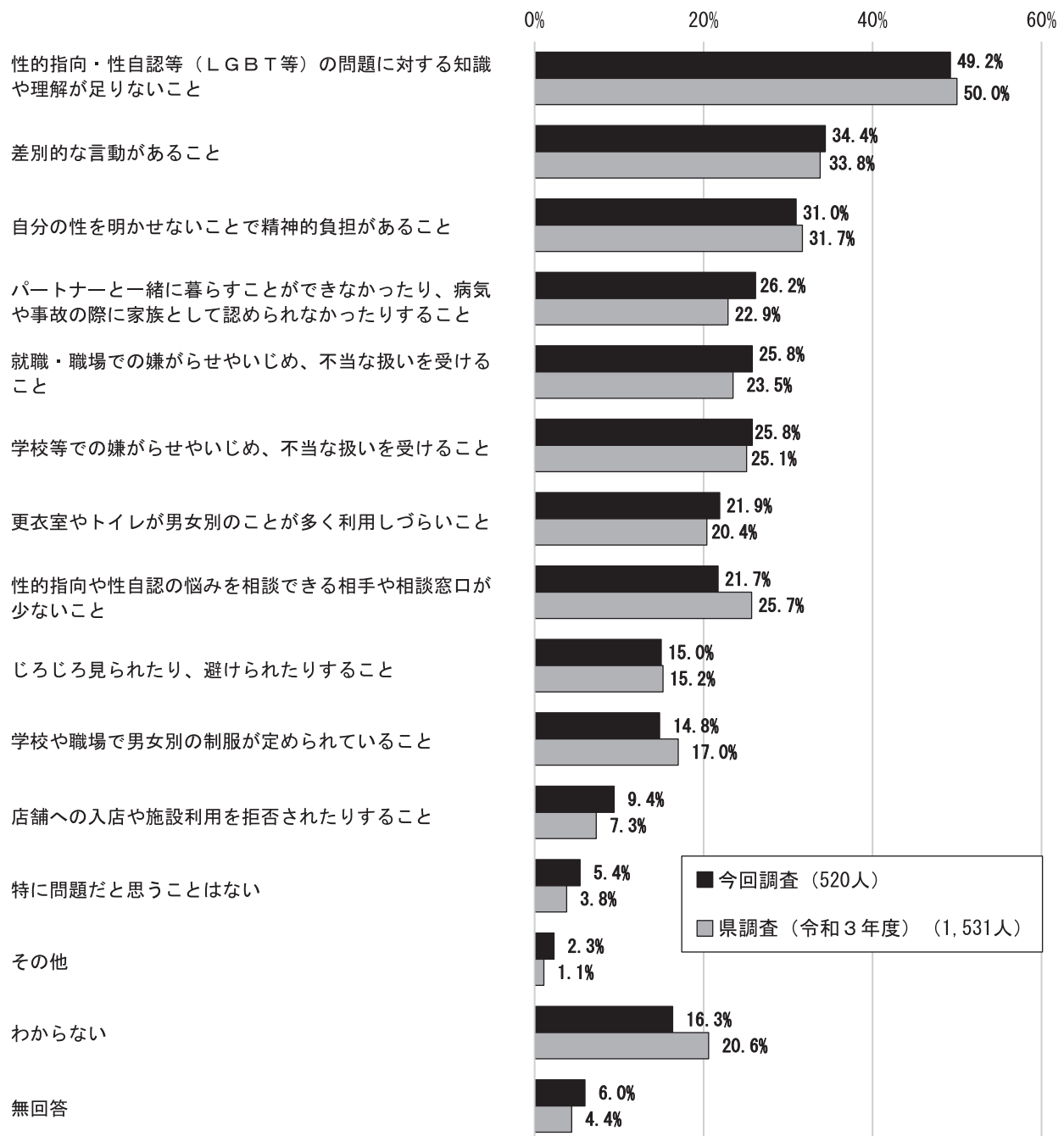


※ 性的指向・性自認等（L G B T等）

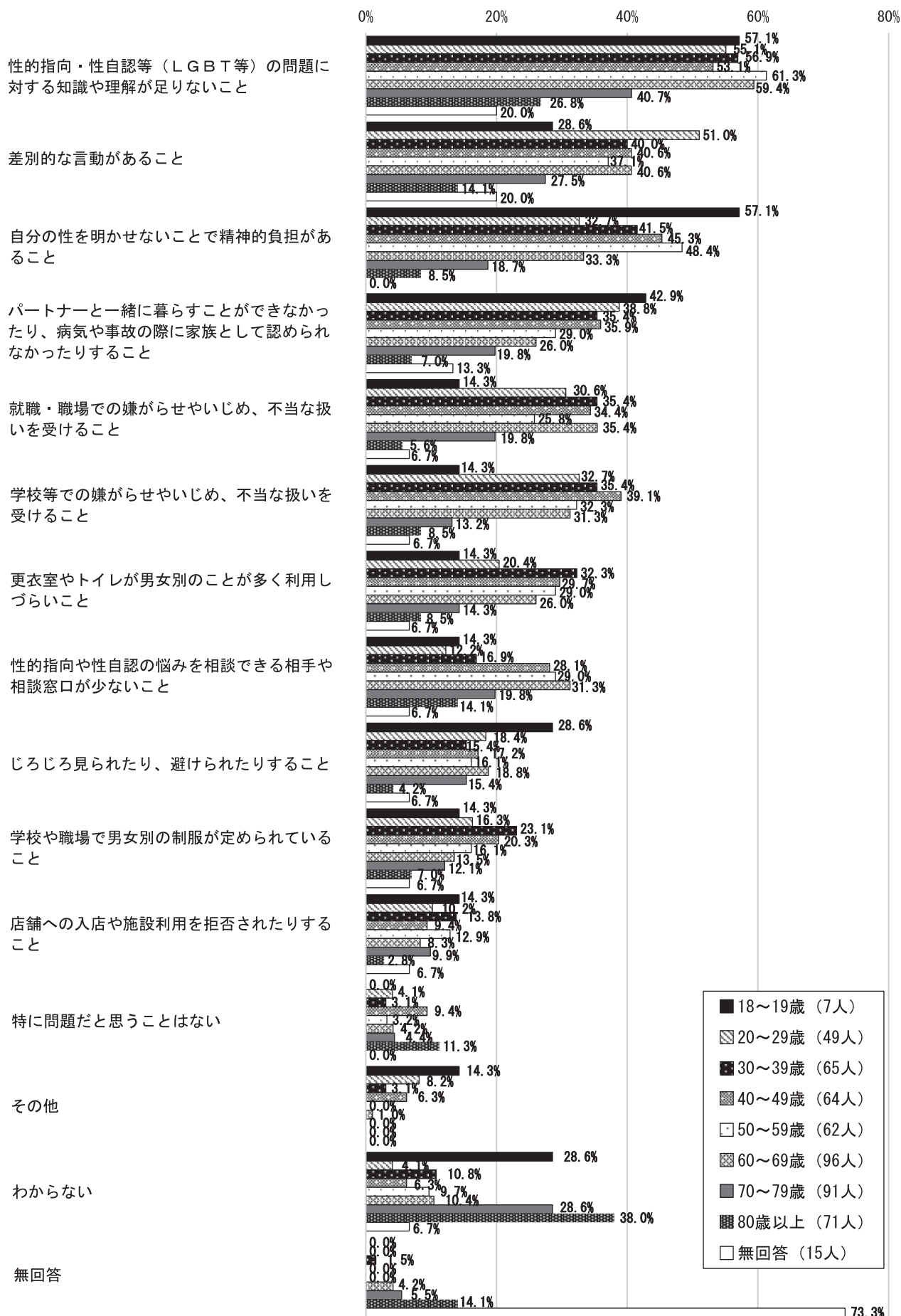
- ・ 性的指向：「恋愛感情や性的な関心がどの性別に向かっているか」ということ
- ・ 性自認：「自分をどの性別と認識するか」ということ
- ・ L G B T等：下記の頭文字を取って組み合わせたもので、性的少数者の総称として用いられる言葉
 - L：女性の同性愛者（Lesbian レズビアン）
 - G：男性の同性愛者（Gay ゲイ）
 - B：両性愛者（Bisexual バイセクシュアル）
 - T：身体と心の性が一致していないため身体の性に違和感をもったり、心の性と一致する性別で生きたいと望んだりする人（Transgender トランスジェンダー）

2. 性的指向・性自認等（LGBT等）に関わる人権上の問題

問29 性的指向・性自認等（LGBT等）に関わる人権について、特にどのようなことが問題だと思いますか。（○はいくつでも）



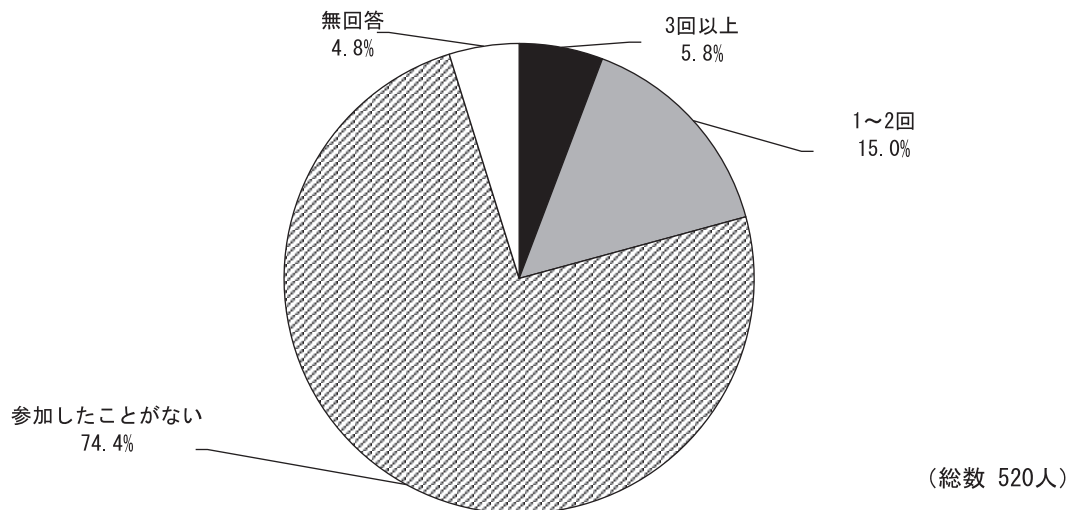
【年代別】



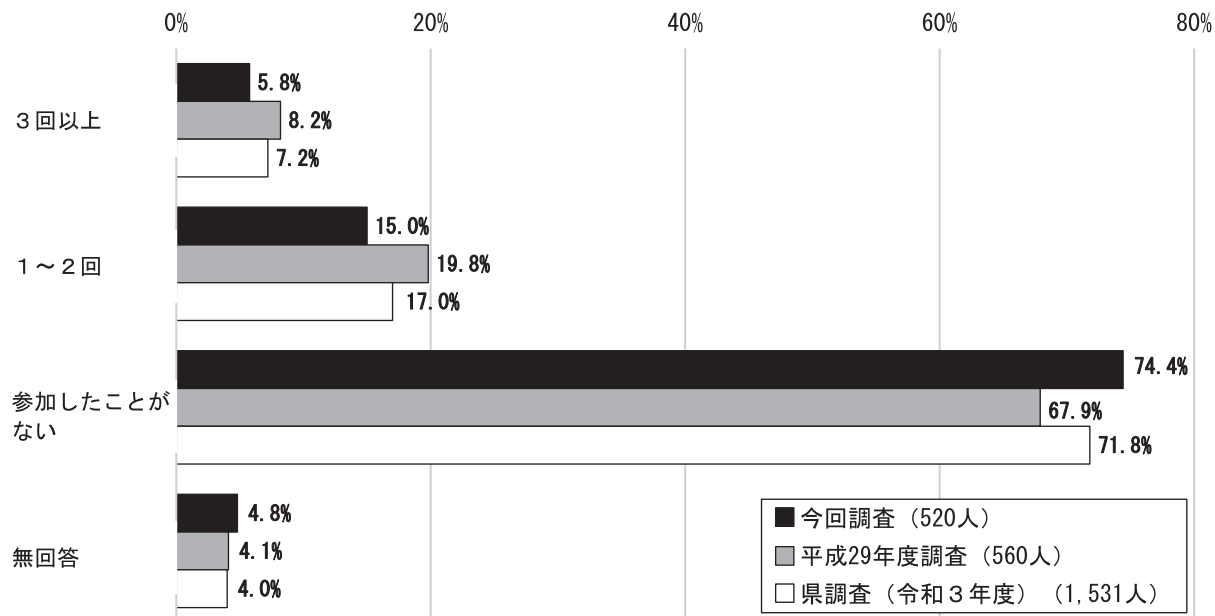
15 研修会の参加状況について

1. 過去3年間における研修会等の参加回数

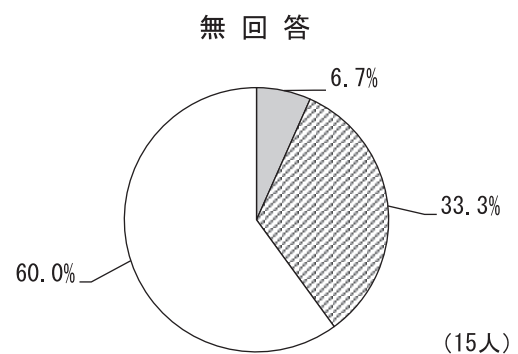
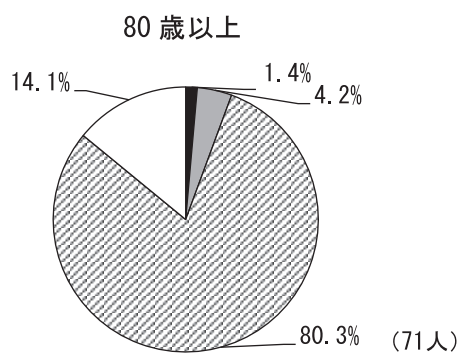
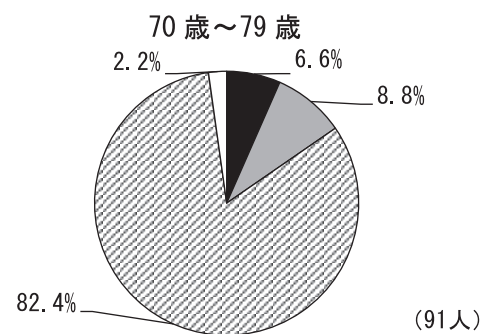
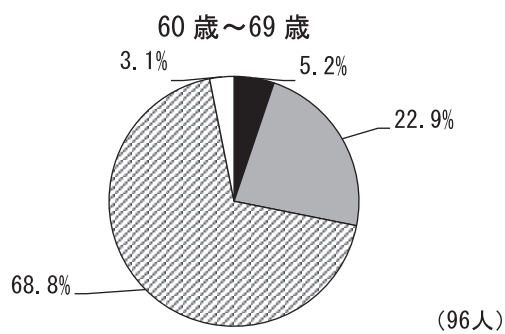
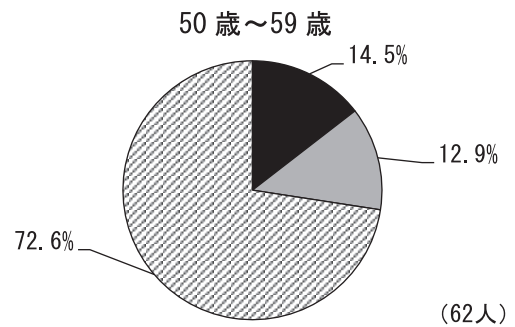
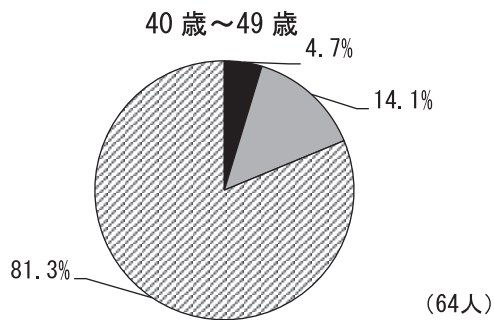
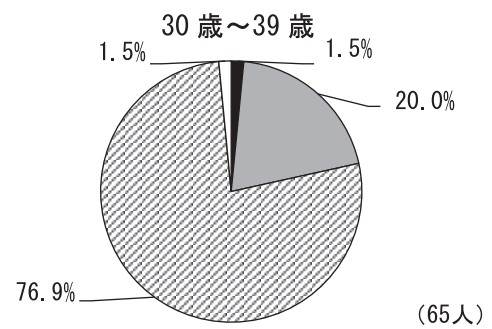
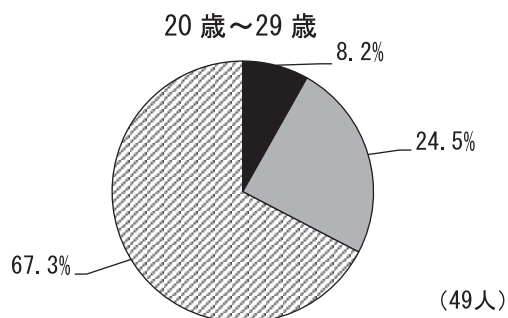
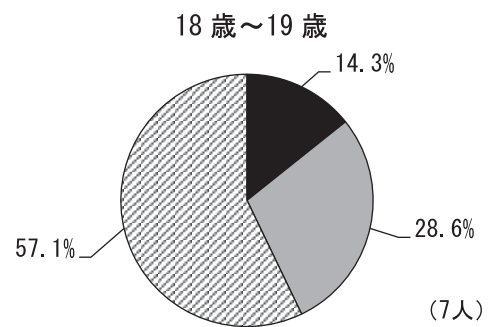
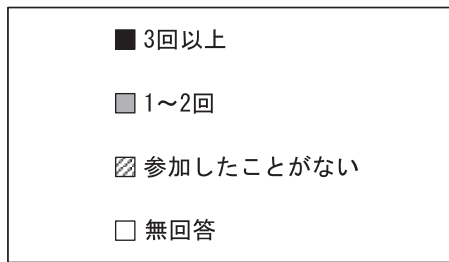
問30 過去3年間くらいの間に、あなたは人権問題に関する講演会や研修会に、何回くらい参加しましたか。（〇は1つ）



【県比較・経年比較】

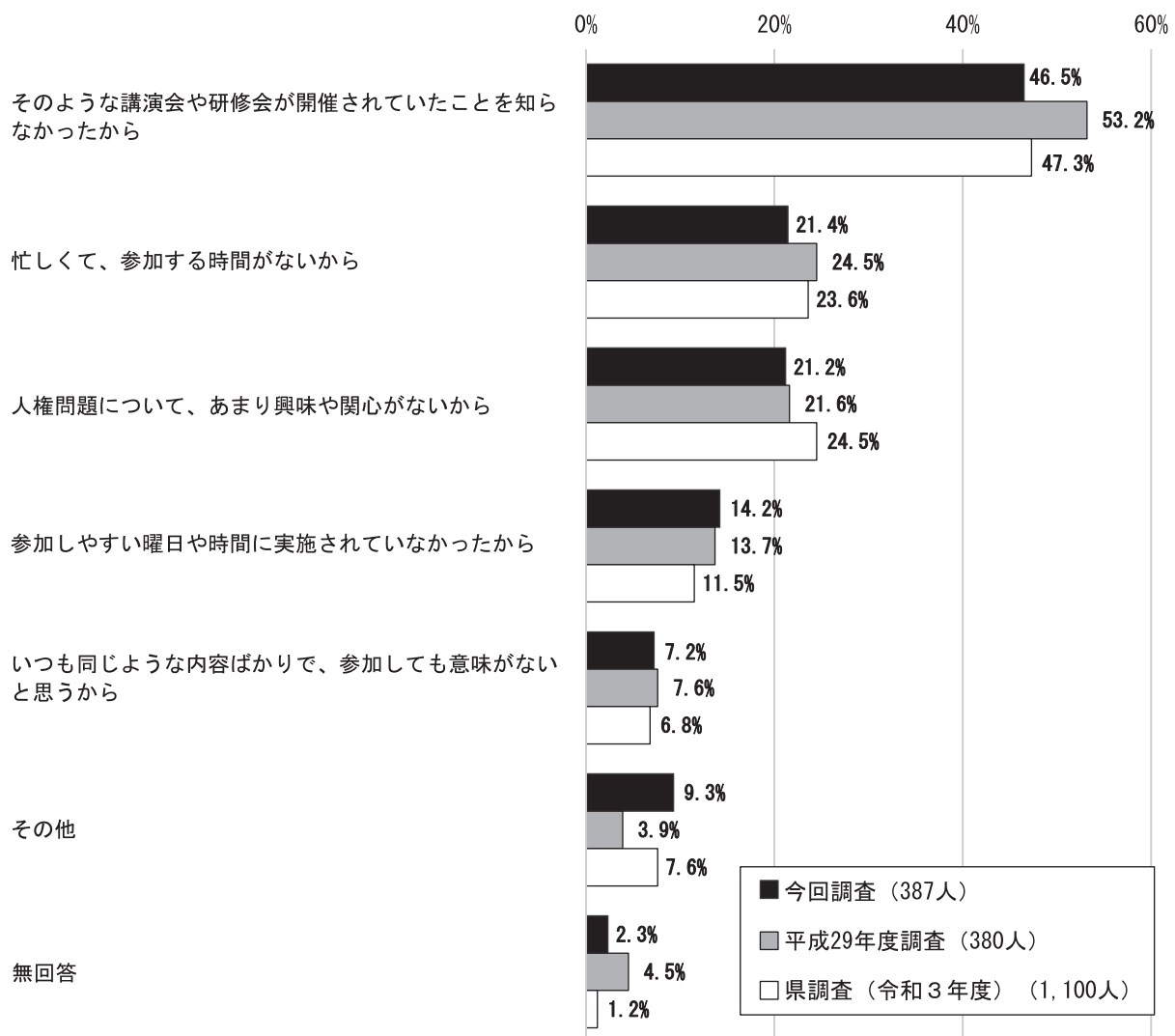


【年代別】



2. 参加しなかった理由

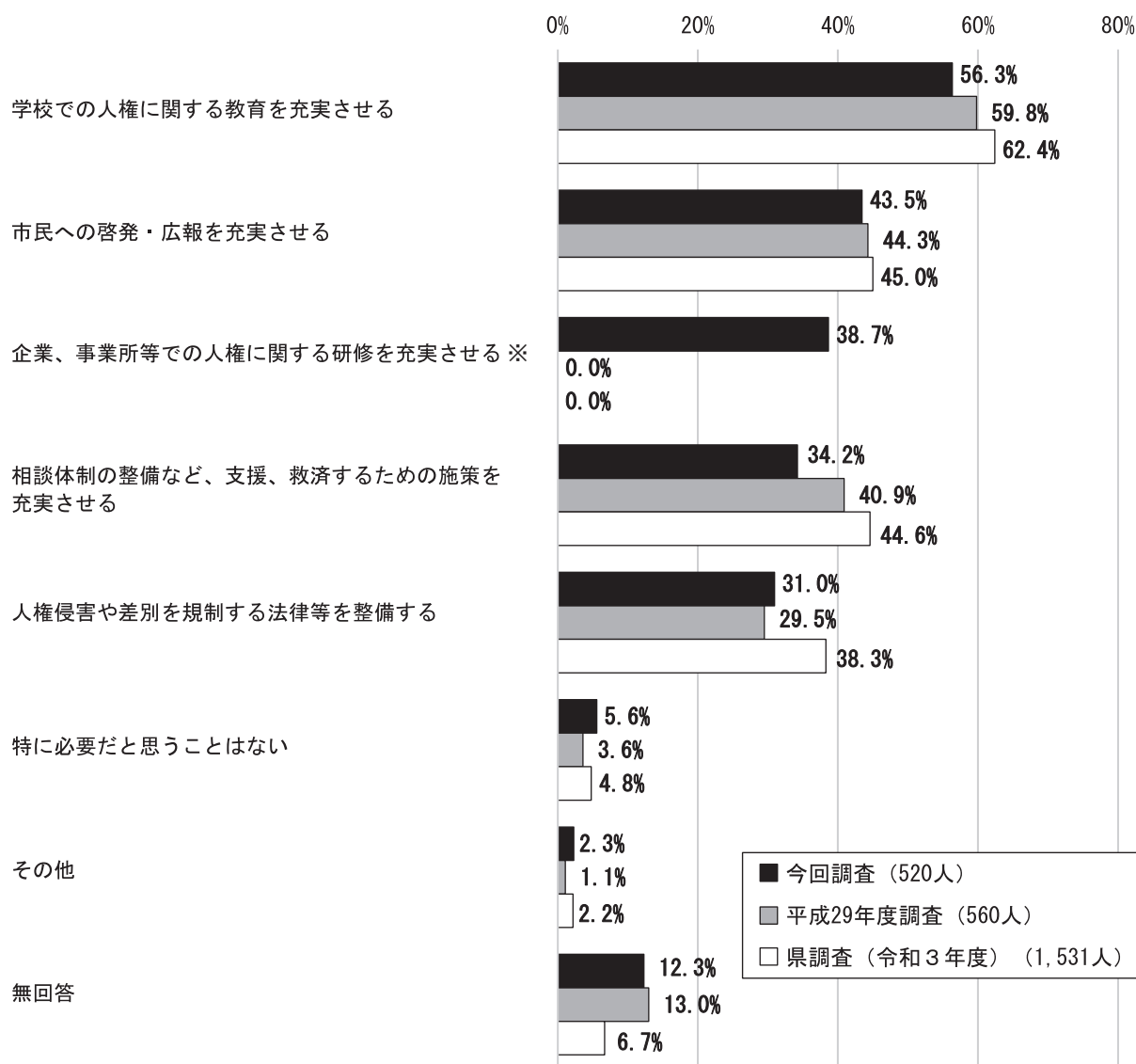
問31 問30で「3」を選ばれた方におたずねします。参加されなかった理由は何ですか。
(〇はいくつでも)



16 人権が尊重される社会に向けた取組について

1. 人権が尊重される社会に向けた行政の取組

問32 人権が尊重される社会を実現するために、行政の施策として、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



※ 平成29年度調査では「学校や企業、事業所での人権に関する教育を充実させる」であったが、今回は「学校」と「企業、事業所」を分けた。前回の数値を「学校での人権に関する教育を充実させる」に入れたため、0%となっている。
また、令和3年度島根県調査にはこの選択肢がなかったため、0%としている。

Ⅲ. 調査の概要・調査結果の分析

I. 調査の概要（P 1～2）

● 回収結果

標本数 1, 500（うち郵送戻り数 6）に対して有効回収標本数は 520、有効回収率は 34.8%であった。今回はオンラインによる Web 回答を導入したが、前回調査の 37.5%には届かなかった。

なお、回収方法別の割合は郵送：29.5%、Web：5.3%であった。

● 回答者の属性

- ・性別…男女ほぼ半数ずつ。自由記述を選択の 2 名は無記入であった。
- ・年齢…20 代までの回収率が低い。

● 住所

- ・人口比率に準じた回収率と思われる。

Ⅱ. 調査結果の概要（P 3～43）

問 1 今の安来市は、人権が尊重される社会になっていると思うか。

「どちらかといえばそう思う」が増え、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が減った。

問 2 人権が尊重されていないと感じる理由はなにか。

「無関心な人や他人事と思う人がいる」「自分勝手に他人の事を考えない人がいる」ことを理由とする回答が多い。

問 3 あなたは、現在どんな人権課題に関心をもっているか。

- ・前回調査では「障がいのある人」「高齢者」などが多かったが、今回は「SNS 等のインターネット上での人権侵害」「様々なハラスメント」「子ども」「女性」が軒並み増えた。特に「性的指向・性自認等（LGBT 等）」は 2 倍以上となり、世相を反映した形となった。
- ・「同和問題」は前回調査、県調査よりも回答率が低い。今後も「人権問題の重要な柱」としてとらえ、啓発活動等に力を入れていく。
- ・患者及び感染者（新型コロナウイルス感染症を含む）については、前回調査からは増加しているが県調査より 10%少ない。5 類に移行後の調査だったことが影響していると思われる。

問 4 過去 5 年間ぐらいの間に、日常生活の中で、差別や人権侵害を受けたと感じることがあったか。

ほぼ前回、県調査と同じ結果となった。

問 5 問 4 で「ある」と回答した方について、誰から（どこで）差別や人権侵害を受けたか。

「その他」が多く、「面接時において」「コロナ予防接種の未接種で」「趣味の会において」など様々な回答が見られた。

<性別ごと>

女性の回答では「家族や親せきなどから」が多い。家庭内での女性の立場が表れていると思われる。一方、男性は「近隣の人から」「行政（公務員）から」など、地域社会における事案が多い。

問6 問4で「ある」と回答した方について、どのような差別や人権侵害を受けたか。

「パワーハラスメントやセクシュアルハラスメント等のハラスメント（嫌がらせ）」が倍増した。「脅迫や強要」「プライバシー侵害」「虐待や暴力」が増えている。

＜性別ごと＞

女性の回答では、特に「パワハラやセクハラ」「差別的な対応や言動」が多い。人権侵害を受けた当事者としての意識の高さが表れていると思われる。

問7 問4で「ある」と回答した方について、そのとき、あなたはどうか。

「誰にも相談しなかった」が減り、「相手に抗議した」か、誰かに相談したとの回答が増えた。今回、相談相手の選択肢を増やしたことも影響したと考えられる。

問8 あなたの身近な人が、差別的な言動をしたとしたら、あなたはどうか。

「その場で指摘して話し合う」が増え、「そのままにしておく」「指摘しない」が減った。

問9 日本は古くからの言い伝えや考え方などがあるが、次の（１）～（５）について、あなたはどうか。

（１）結婚式や祝い事は「大安」の日がよい

「当然のこと」が半減し「自分だけ反対しても仕方無い」は微増した。「間違っている」が約３倍に増えた。

（２）葬儀は「友引」の日を避ける

「当然のこと」は減ったが、「自分だけ反対しても仕方無い」が増え、結果的に容認派は前回とほぼ同じ８割を占めた。また「間違っている」は県の半分にとどまった。

（３）結婚相手を決めるときに、家柄を気にする

前回調査、県調査の結果とほぼ変わらなかった。

（４）結婚相手を決めるときに、相手方の身元調査をする

「当然のこと」が微増し、「間違っている」が減った。

（５）結婚相手を決めるときに、「ひのえうま」や「きつねもち」を気にする

「間違っている」が県調査より約２０％少ない。「その言い伝えや考え方自体を知らない」はあまり減らなかった。

問10 女性の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

県調査とほぼ同じ傾向で、「固定的な役割分担意識がある」「男女に平等でないしきたり・慣習が残っている」の回答が多かった。

＜性別ごと＞

全体的に男性に比べて女性の回答率が高いのは、当事者としての問題意識の強さの表れであると思われる。

問11 子どもの人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

近年、子どもの問題として取り上げられることの多い「貧困、ヤングケアラー」「体罰や虐待」の回答率が増えた。

問12 高齢者の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

全体的に回答率が前回調査より減ったが、今回選択肢に追加した「認知症のある人への理解や認識が十分でないこと」への回答が多かった。

問 1 3 障がいのある人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

県調査とほぼ同じ傾向で、前回調査よりも全体的に回答率が低かった。

問 1 4 同和問題について初めて知ったのは、どのようなことがきっかけだったか。

- ・ 前回、県調査と同じ傾向で、「家族・親戚」、「学校の授業」がきっかけという人が多い。
- ・ 「同和問題のことは知らない」が約 10%、10 人に 1 人いるという事実がある。P18 は、年代別にまとめたグラフだが、特に、20 歳～29 歳、30 歳から 39 歳では、20%を超えており、4 人に 1 人が「知らない」と回答している。

問 1 5 同和問題について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・ 前回、県調査と同じ傾向にある。
- ・ 同和問題の一番の問題は、「結婚の時に、家族・親戚から反対されること」が圧倒的に多く、7 割近い。

問 1 6 (1) あなたのお子さんが同和地区の人と結婚しようとしたとき、どうするか。

- ・ 前回、県調査と同じ傾向にあり、あわせて 90%近い人が「結婚を認める」と回答している。また、「子どもの意思を尊重する」も 64.1%いる。

問 1 6 (2) あなたが同和地区の人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けた場合、どうするか。

- ・ 前回、県調査と同じ傾向にある。「自分の意思を貫いて結婚する」と回答した人が合わせて 73.2%と、7 割を超えているが、家族・親戚の反対があれば、「結婚しない」「あきらめる」という人も合わせて 20%近く、5 人に 1 人いるという事実もある。

問 1 7 あなたが家(住宅)を購入しようとした際に、価格や立地条件などが希望にあっても、その物件が同和地区にあるとわかったら、どうするか。

- ・ 前回、県調査と比較して、今回の調査では、「どちらかといえば避けない」と回答した人が 3 分の 1 に減り、「避ける」「どちらかといえば避ける」と回答した人が、45.8%と、増加している。
- ・ 「全く気にしない」と回答した人も前回と比べると、6%増えている。

問 1 8 同和問題は、あなたにとってどんな問題か。

- ・ 「自分も市民の 1 人として、この問題の解決に努力すべき」と回答した人が 37.6%と多いが、「直接関係ない」とか、「よく考えていない」等、「他人事」であったり、「無関心」であったりする人の割合が若干多くなっている。また、「同和問題は解決してる」と誤認識している人の割合も若干増えている。

問 1 9 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思うか。

- ・ 前回、県調査と同じ傾向にあると言える。「同和地区にかたまって生活しない」「そっとしておく」(いわゆる寝た子を起こすな論)「同和地区の人自身が努力する」などという回答も一定数ある。

問 1 4 と問 1 8 との比較

- ・ 「認知経路」と「解決のための考え」のクロス集計である。
- ・ 「学校の授業・友達」「講演会・研修会」で知ったという人は、「市民の 1 人として努力すべき」という意識が高いという相関があると思われる。

問 14 と問 19 との比較

- ・「認知経路」と「解決のための方策」のクロス集計である。
- ・「寝た子は起こすな論」の人や「分散して住む」など消極的な人の認知経路で多かったのは「職場から」「家族・親戚」「近所」だった。

問 20 日本で生活する外国人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・前回、県調査と同じ傾向にあると思われる。

問 21 HIV感染者及び肝炎ウイルス感染者等の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・前回、県調査と同じ傾向にあると思われる。

問 22 ハンセン病回復者の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・他の質問と比較して、「わからない」と回答した人の割合が27.3%とかなり多くなっている。これは、前回、県調査と同じ傾向にある。「ハンセン病」は、遠い存在と思うのではなく、まずは「知る」ことから始めるという意味で、「研修」「講座」等に、積極的に取り入れていかねばならない課題である。

問 23 新型コロナウイルス感染症に関わる人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・調査を実施した時期がすでに「5類」へ移行していたため、どの選択肢もかなり減っており、「特に問題とは思わない」が増加している。

問 24 犯罪被害者とその家族の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・どの選択肢も減少傾向にあるが、上から4つ目の「理解や認識が十分でない」としている人が40%いるので、「研修」「講座」等に、積極的に取り入れていかねばならない課題である。

問 25 刑を終えて出所した人の人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・前回、県調査と同じ傾向にあるが、「わからない」と回答した人の割合が20%を超えている。「犯罪者」「刑を終えて出所した人」が自分自身にとって、「遠い存在」として見られている可能性がある。

問 26 インターネット上の人権侵害に関して、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・どの選択肢も3年前の県調査より多くなっている。それだけ、ネットが生活に深く入りこみ、同時にいろいろな問題がニュース等で報道され、我々にとって身近な存在になってきていると思われる。
- ・年代別に見てみると、どの世代もほぼ同じ傾向があるが、10代の割合がどの選択肢も多いように思う。逆に、「わからない」と回答した年代は、年を追って増加している。

問 27 インターネット上の人権侵害をなくすためには、どのようなことが必要だと思うか。

- ・県とほぼ同じ傾向である。

問 28 性的指向・性自認等（LGBT等）に関わる人権について、あなたはどのように考えるか。

- ・県調査とほぼ同じ傾向にあると思われる。「わからない」と回答した人も13.5%と多い。まだ、身近に感じていない人が多いように思われる。

問２９ 性的指向・性自認等（ＬＧＢＴ等）に関わる人権について、特にどのようなことが問題だと思うか。

- ・ 県調査とほぼ同じ傾向にあると思われる。「わからない」と回答した人も１６．３％と問２８同様多い傾向にある。
- ・ 年代別では、多くの選択肢で、若い世代の割合が多い。「LGBT 等」をより身近に捉えていると思われる。

問３０ 過去３年間くらいの間に、あなたは人権問題に関する講演会や研修会に、何回くらい参加したか。

- ・ 傾向は、前回調査、県調査と変わらないが、「参加したことがない」の割合が、７４．４％と、非常に高くなっている。
- ・ 過去３年間は、ちょうどコロナ禍であったため、参加しにくい状況があったのではないと思われる。
- ・ 年代別で見ると、３０歳～３９歳、４０歳～４９歳の世代で、８割が一度も「参加したことがない」。仕事の関係で、昼間の講演会、研修会は参加しにくいと思われる。

問３１ 問３０で「参加したことがない」を選ばれた方は、なぜ参加されなかったのか。

- ・ 参加出来ない理由については、前回、県調査と同じ傾向がある。

問３２ 人権が尊重される社会を実現するために、行政の施策として、特にどのような取り組みが必要だと思うか。

- ・ 行政の施策については、前回、県調査と同じ傾向があり、学校での人権教育、企業での人権研修、市民への啓発、相談体制の充実等を望む声が大きかった。